

## 第3章 コンクリート工

### ① コンクリート工

#### 1. 適用

一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。  
 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、治山ダム工コンクリート、コンクリート舗装（路面工）、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、場所打擁壁工、函渠工、橋台・橋脚工には適用しない。

#### 2. 数量算出項目

コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、構造物種別、施工条件、コンクリート規格、設計日打設量、養生工の種類、圧送管延長距離区分、現場内小運搬の有無、打設高さ、水平距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	構造物種別	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管距離区分	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考
コンクリート		○	○	○	○	○	○	○	m <sup>3</sup>		

(2) 構造物種別区分

- ① 無筋・鉄筋構造物
- ② 小型構造物

(3) 施工条件区分

1) 無筋・鉄筋構造物

- ① 打設量 10m<sup>3</sup>/日以上又は打設地上高さ 2m 超
- ② 打設量 10m<sup>3</sup>/日未満かつ打設地上高さ 2m 以下

2) 小型構造物

- ① 打設地上高さ 2m 超 28m 以下水平距離 30m 以下
- ② 打設地上高さ 2m 以下

(4) コンクリート規格区分

- ① 21-8-25(20) (普通)
- ② 24-8-25(20) (普通)
- ③ 27-8-25(20) (普通)
- ④ 30-8-25(20) (普通)
- ⑤ 40-8-25(20) (普通)
- ⑥ 18-8-40 (普通)
- ⑦ 19.5-8-40 (普通)
- ⑧ 21-8-40 (普通)
- ⑨ 21-12-40 (普通)
- ⑩ 22.5-8-40 (普通)
- ⑪ 24-8-40 (普通)
- ⑫ 4.5-2.5-40 (普通)
- ⑬ 21-8-25(20) (高炉)
- ⑭ 24-8-25(20) (高炉)
- ⑮ 19.5-5-40 (高炉)
- ⑯ 19.5-8-40 (高炉)
- ⑰ 18-5-40 (高炉)
- ⑱ 21-5-40 (高炉)
- ⑲ 18-8-40 (高炉)
- ⑳ 21-8-40 (高炉)
- ㉑ 24-8-40 (高炉)
- ㉒ 21-12-40 (高炉)
- ㉓ 40-8-25 (早強)
- ㉔ 21-8-25 (早強)
- ㉕ 24-8-25 (早強)
- ㉖ 18-8-25 (高炉)
- ㉗ 21-5-80 (高炉)
- ㉘ 18-3-40 (高炉)
- ㉙ 21-3-40 (高炉)
- ㉚ 各種

(5) 設計日打設量区分

- ① 10m<sup>3</sup>以上 300 m<sup>3</sup>未満
- ② 300 m<sup>3</sup>以上 600 m<sup>3</sup>未満

(6) 養生工の種類区分

- ① 養生無し
- ② 一般養生
- ③ 特殊養生 (練炭、ジェットヒータ)

(7) 圧送管距離区分

- ① 延長無し

- ② 60m 以下
- ③ 60m 超 120m 以下
- ④ 120m 超 180m 以下
- ⑤ 180m 超 240m 以下

(8) 打設高さ、水平距離区分

- ① 打設高さ約 17m 以下、水平距離約 17m 以下
- ② 打設高さ約 25m 以下、水平距離約 18m 以下
- ③ 打設高さ約 25m 以下、水平距離約 20m 以下
- ④ 打設高さ約 28m 以下、水平距離約 20m 以下
- ⑤ 水平距離約 30m 以下

#### 4. 数量算出方法

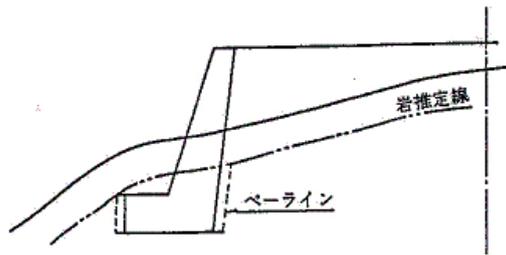
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 型枠を設置できない場合はペーラインを計上するものとする。

ペーラインコンクリート厚は以下のとおりとする。

岩着 → 10cm      土着 → 5cm

(例)



## ② 型枠工

### 1. 適用

構造物の施工にかかる型枠工に適用する。  
ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、治山、ダム、トンネル、場所打擁壁工、函渠工、橋台・橋脚工には適用しない。

### 2. 数量算出項目

型枠の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、型枠の種類、構造物の種類とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	型枠の種類	構造物の種類	単位	数量	備考
型 枠	○	○	m <sup>2</sup>		

注) 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。  
2. 鉄筋・無筋構造物（合板円形型枠使用）は、半径 5m 以下の円形部分に適用する。

#### (2) 型枠の種類

- ① 一般型枠
- ② 化粧型枠
- ③ 撤去しない埋設型枠

#### (3) 構造物の種類

- ① 鉄筋・無筋構造物
- ② 小型構造物
- ③ 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)
- ④ 均しコンクリート
- ⑤ 床版部
- ⑥ 支承部・連結部

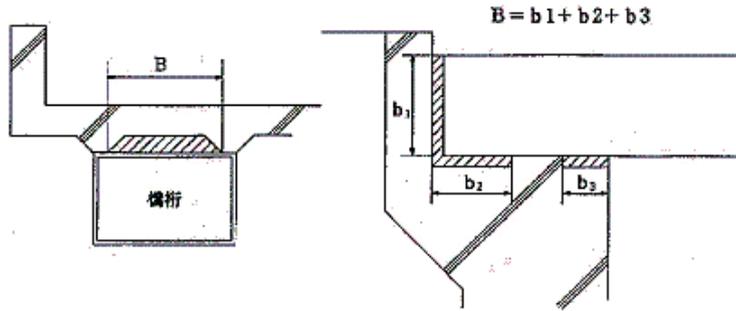
### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 撤去しない埋設型枠の算出は、下記のとおりとする。

床版部

支承部・連結部

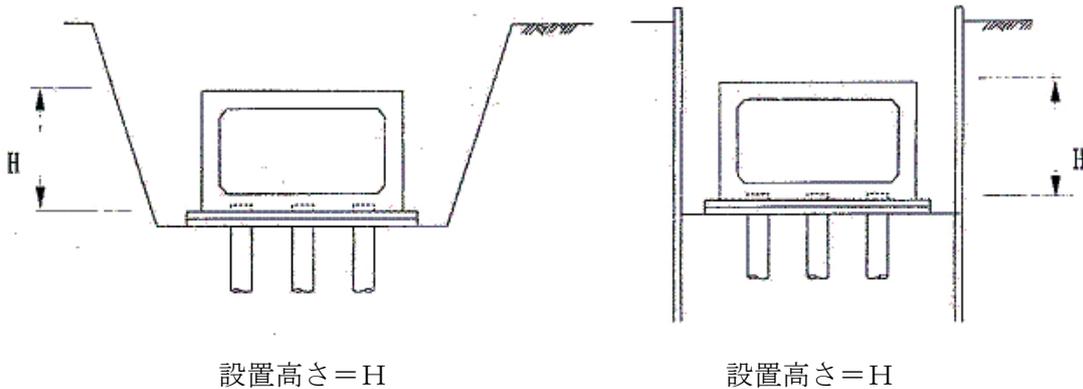


$A = B \times L$       A : 型枠面積 (m<sup>2</sup>)  
                          B : 設置幅 (m)  
                          L : 設置延長 (m)

(2) 妻型枠については、小型構造物は計上しない。無筋構造物は施工手順を検討の上、必要数量を計上する。

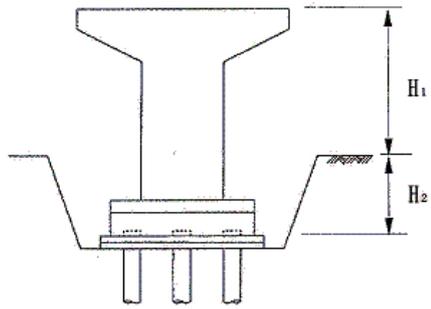
(3) 型枠の設置高さ区分

型枠材の設置において、設置高さの平均が 30m を超える場合は、その設置高さを備考欄に明記すること。

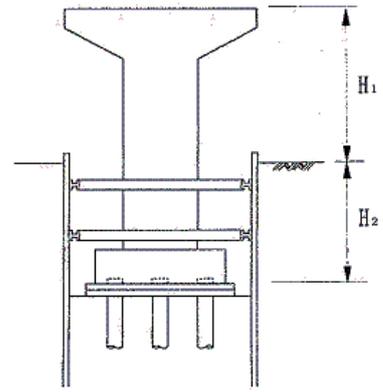


設置高さ = H

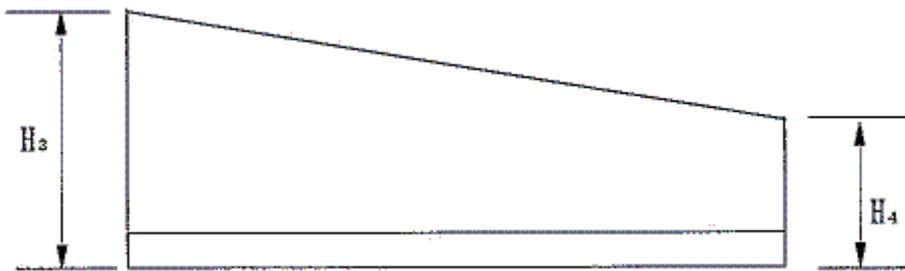
設置高さ = H



設置高さ =  $H_1 + H_2$



設置高さ =  $H_1 + H_2$



平均設置高さ =  $1/2 \times (H_3 + H_4)$

### ③ 型枠工（省力化構造）

#### 1. 適用

「土木構造物設計マニュアル（案）－樋門編－」（平成 13 年 12 月 21 日国土交通省）に基づき設計された函渠、胸壁、しゃ水壁、門柱、ゲート操作台、翼壁の内、平均設置高 30m 以下の型枠工（円形型枠、化粧型枠を除く）に適用する。

#### 2. 数量算出項目

型枠の面積を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、無しとする。

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編（共通編） 1 章基本事項」による。



## 第4章 河川海岸

### ① 消波根固めブロック工

#### 1. 適用

治山工事等において河川・海岸部に使用する 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロック工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### ①消波根固めブロック製作

	区分	消波根固めブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考
項目										
消波根固めブロック製作	○	○	○	○	○	○	○	個		

②消波根固めブロック据付及び消波根固めブロック仮置

区分 項目	消波根固めブロック規格	据付場所	製作ヤード又は仮置ヤードでの横取り作業の有無	積込作業の有無	荷卸作業の有無	据付現場ヤードでの横取作業の有無	ブロック10個当り連結金具設置数量	据付方法	クレーン機種	単位	数量	備考
消波根固めブロック据付	○	○	○	○	○	○	実数	○	○	個		
消波根固めブロック仮置	○	×	○	×	×	×	×	×	○	個		

③消波根固めブロック運搬

区分 項目	消波根固めブロック規格	作業区分	トラック1台当りブロック積載個数	トラック1台当り運搬距離	単位	数量	備考
消波根固めブロック運搬	○	○	○	○	個		

(2) 消波根固めブロック規格区分

- ① 2.5 t 以下
- ② 2.5t を超え 5.5t 以下
- ③ 5.5t を超え 11.0t 以下

(3) 型枠の種類区分

- ① 鋼製型枠・FRP 製型枠
- ② 直積ブロック用鋼製型枠

(4) 生コンクリート規格区分

- ① 18-5-40(普通)
- ② 18-8-25(20)(普通)
- ③ 18-8-40(普通)
- ④ 18-12-25(20)(普通)
- ⑤ 18-12-40(普通)
- ⑥ 19.5-8-40(普通)

- ⑦ 21-8-25(20)(普通)
- ⑧ 21-8-40(普通)
- ⑨ 21-12-25(20)(普通)
- ⑩ 21-12-40(普通)
- ⑪ 18-5-40(高炉)
- ⑫ 18-8-40(高炉)
- ⑬ 19.5-5-40(高炉)
- ⑭ 19.5-8-40(高炉)
- ⑮ 21-5-40(高炉)
- ⑯ 21-8-25(20)(高炉)
- ⑰ 21-8-40(高炉)
- ⑱ 24-8-25(20)(高炉)
- ⑲ 27-5-40(高炉)
- ⑳ 各種

(5) 1個当りコンクリート設計量区分及び1個当り型枠面積区分

1個当りコンクリート設計量(m3)	1個当り型枠面積(m2)	1個当りコンクリート設計量(m3)	1個当り型枠面積(m2)
0.17m3 以上 0.23m3 以下	2.00m2 以上 2.20m2 以下	0.57m3 超え 0.64m3 以下	3.50m2 以上 3.96m2 以下
	2.20m2 超え 2.40m2 以下		3.96m2 超え 4.42m2 以下
	2.40m2 超え 2.60m2 以下		4.42m2 超え 4.88m2 以下
	2.60m2 超え 2.80m2 以下		4.88m2 超え 5.34m2 以下
	2.80m2 超え 3.00m2 以下		5.34m2 超え 5.80m2 以下
0.23m3 超え 0.28m3 以下	2.20m2 以上 2.43m2 以下	0.64m3 超え 0.71m3 以下	3.75m2 以上 4.27m2 以下
	2.43m2 超え 2.66m2 以下		4.27m2 超え 4.78m2 以下
	2.66m2 超え 2.89m2 以下		4.78m2 超え 5.29m2 以下
	2.89m2 超え 3.12m2 以下		5.29m2 超え 5.8m2 以下
	3.12m2 超え 3.35m2 以下		5.8m2 超え 6.31m2 以下
0.28m3 超え 0.33m3 以下	2.37m2 以上 2.64m2 以下	0.71m3 超え 0.79m3 以下	4.06m2 以上 4.62m2 以下
	2.64m2 超え 2.91m2 以下		4.62m2 超え 5.18m2 以下
	2.91m2 超え 3.18m2 以下		5.18m2 超え 5.74m2 以下
	3.18m2 超え 3.45m2 以下		5.74m2 超え 6.30m2 以下
	3.45m2 超え 3.72m2 以下		6.30m2 超え 6.86m2 以下
0.33m3 超え 0.39m3 以下	2.59m2 以上 2.90m2 以下	0.79m3 超え 0.86m3 以下	4.28m2 以上 4.90m2 以下
	2.90m2 超え 3.21m2 以下		4.90m2 超え 5.52m2 以下
	3.21m2 超え 3.52m2 以下		5.52m2 超え 6.14m2 以下
	3.52m2 超え 3.83m2 以下		6.14m2 超え 6.76m2 以下
	3.83m2 超え 4.14m2 以下		6.76m2 超え 7.38m2 以下
0.39m3 超え 0.45m3 以下	2.81m2 以上 3.16m2 以下	0.86m3 超え 0.94m3 以下	4.58m2 以上 5.26m2 以下
	3.16m2 超え 3.51m2 以下		5.26m2 超え 5.93m2 以下
	3.51m2 超え 3.86m2 以下		5.93m2 超え 6.60m2 以下
	3.86m2 超え 4.21m2 以下		6.60m2 超え 7.27m2 以下
	4.21m2 超え 4.56m2 以下		7.27m2 超え 7.94m2 以下
0.45m3 超え 0.51m3 以下	3.04m2 以上 3.43m2 以下	0.94m3 超え 1.04m3 以下	4.92m2 以上 5.66m2 以下
	3.43m2 超え 3.82m2 以下		5.66m2 超え 6.39m2 以下
	3.82m2 超え 4.21m2 以下		6.39m2 超え 7.12m2 以下
	4.21m2 超え 4.60m2 以下		7.12m2 超え 7.85m2 以下
	4.60m2 超え 4.99m2 以下		7.85m2 超え 8.58m2 以下
0.51m3 超え 0.57m3 以下	3.25m2 以上 3.69m2 以下	1.04m3 超え 1.13m3 以下	5.25m2 以上 6.05m2 以下
	3.69m2 超え 4.12m2 以下		6.05m2 超え 6.84m2 以下
	4.12m2 超え 4.55m2 以下		6.84m2 超え 7.63m2 以下
	4.55m2 超え 4.98m2 以下		7.63m2 超え 8.42m2 以下
	4.98m2 超え 5.41m2 以下		8.42m2 超え 9.21m2 以下

1個当りコンクリート設計量 (m <sup>3</sup> )	1個当り型枠面積(m <sup>2</sup> )	1個当りコンクリート設計量 (m <sup>3</sup> )	1個当り型枠面積(m <sup>2</sup> )
1.05m <sup>3</sup> 以上 1.15m <sup>3</sup> 以下	5.14m <sup>2</sup> 以上 5.94m <sup>2</sup> 以下	1.73m <sup>3</sup> 超え 1.87m <sup>3</sup> 以下	6.61m <sup>2</sup> 以上 7.81m <sup>2</sup> 以下
	5.94m <sup>2</sup> 超え 6.73m <sup>2</sup> 以下		7.81m <sup>2</sup> 超え 9.00m <sup>2</sup> 以下
	6.73m <sup>2</sup> 超え 7.52m <sup>2</sup> 以下		9.00m <sup>2</sup> 超え 10.19m <sup>2</sup> 以下
	7.52m <sup>2</sup> 超え 8.31m <sup>2</sup> 以下		10.19m <sup>2</sup> 超え 11.38m <sup>2</sup> 以下
	8.31m <sup>2</sup> 超え 9.10m <sup>2</sup> 以下		11.38m <sup>2</sup> 超え 12.57m <sup>2</sup> 以下
1.15m <sup>3</sup> 超え 1.25m <sup>3</sup> 以下	5.35m <sup>2</sup> 以上 6.21m <sup>2</sup> 以下	1.87m <sup>3</sup> 超え 2.01m <sup>3</sup> 以下	6.91m <sup>2</sup> 以上 8.19m <sup>2</sup> 以下
	6.21m <sup>2</sup> 超え 7.06m <sup>2</sup> 以下		8.19m <sup>2</sup> 超え 9.46m <sup>2</sup> 以下
	7.06m <sup>2</sup> 超え 7.91m <sup>2</sup> 以下		9.46m <sup>2</sup> 超え 10.73m <sup>2</sup> 以下
	7.91m <sup>2</sup> 超え 8.76m <sup>2</sup> 以下		10.73m <sup>2</sup> 超え 12.00m <sup>2</sup> 以下
	8.76m <sup>2</sup> 超え 9.61m <sup>2</sup> 以下		12.00m <sup>2</sup> 超え 13.27m <sup>2</sup> 以下
1.25m <sup>3</sup> 超え 1.37m <sup>3</sup> 以下	5.58m <sup>2</sup> 以上 6.50m <sup>2</sup> 以下	2.01m <sup>3</sup> 超え 2.17m <sup>3</sup> 以下	7.24m <sup>2</sup> 以上 8.60m <sup>2</sup> 以下
	6.50m <sup>2</sup> 超え 7.41m <sup>2</sup> 以下		8.60m <sup>2</sup> 超え 9.95m <sup>2</sup> 以下
	7.41m <sup>2</sup> 超え 8.32m <sup>2</sup> 以下		9.95m <sup>2</sup> 超え 11.3m <sup>2</sup> 以下
	8.32m <sup>2</sup> 超え 9.23m <sup>2</sup> 以下		11.3m <sup>2</sup> 超え 12.65m <sup>2</sup> 以下
	9.23m <sup>2</sup> 超え 10.14m <sup>2</sup> 以下		12.65m <sup>2</sup> 超え 14.00m <sup>2</sup> 以下
1.37m <sup>3</sup> 超え 1.48m <sup>3</sup> 以下	5.87m <sup>2</sup> 以上 6.83m <sup>2</sup> 以下	2.17m <sup>3</sup> 超え 2.33m <sup>3</sup> 以下	7.53m <sup>2</sup> 以上 8.99m <sup>2</sup> 以下
	6.83m <sup>2</sup> 超え 7.80m <sup>2</sup> 以下		8.99m <sup>2</sup> 超え 10.45m <sup>2</sup> 以下
	7.80m <sup>2</sup> 超え 8.77m <sup>2</sup> 以下		10.45m <sup>2</sup> 超え 11.91m <sup>2</sup> 以下
	8.77m <sup>2</sup> 超え 9.74m <sup>2</sup> 以下		11.91m <sup>2</sup> 超え 13.37m <sup>2</sup> 以下
	9.74m <sup>2</sup> 超え 10.71m <sup>2</sup> 以下		13.37m <sup>2</sup> 超え 14.83m <sup>2</sup> 以下
1.48m <sup>3</sup> 超え 1.61m <sup>3</sup> 以下	6.04m <sup>2</sup> 以上 7.08m <sup>2</sup> 以下	2.33m <sup>3</sup> 超え 2.51m <sup>3</sup> 以下	7.95m <sup>2</sup> 以上 9.49m <sup>2</sup> 以下
	7.08m <sup>2</sup> 超え 8.12m <sup>2</sup> 以下		9.49m <sup>2</sup> 超え 11.02m <sup>2</sup> 以下
	8.12m <sup>2</sup> 超え 9.16m <sup>2</sup> 以下		11.02m <sup>2</sup> 超え 12.55m <sup>2</sup> 以下
	9.16m <sup>2</sup> 超え 10.2m <sup>2</sup> 以下		12.55m <sup>2</sup> 超え 14.08m <sup>2</sup> 以下
	10.2m <sup>2</sup> 超え 11.24m <sup>2</sup> 以下		14.08m <sup>2</sup> 超え 15.61m <sup>2</sup> 以下
1.61m <sup>3</sup> 超え 1.73m <sup>3</sup> 以下	6.34m <sup>2</sup> 以上 7.46m <sup>2</sup> 以下		
	7.46m <sup>2</sup> 超え 8.58m <sup>2</sup> 以下		
	8.58m <sup>2</sup> 超え 9.70m <sup>2</sup> 以下		
	9.70m <sup>2</sup> 超え 10.82m <sup>2</sup> 以下		
	10.82m <sup>2</sup> 超え 11.94m <sup>2</sup> 以下		

1個当りコンクリート設計量 (m <sup>3</sup> )	1個当り型枠面積(m <sup>2</sup> )	1個当りコンクリート設計量 (m <sup>3</sup> )	1個当り型枠面積(m <sup>2</sup> )
2.20m <sup>3</sup> 以上 2.40m <sup>3</sup> 以下	10.01m <sup>2</sup> 以上 11.59m <sup>2</sup> 以下	3.45m <sup>3</sup> 超え 3.70m <sup>3</sup> 以下	12.23m <sup>2</sup> 以上 14.51m <sup>2</sup> 以下
	11.59m <sup>2</sup> 超え 13.15m <sup>2</sup> 以下		14.51m <sup>2</sup> 超え 16.79m <sup>2</sup> 以下
	13.15m <sup>2</sup> 超え 14.73m <sup>2</sup> 以下		16.79m <sup>2</sup> 超え 19.07m <sup>2</sup> 以下
2.40m <sup>3</sup> 超え 2.60m <sup>3</sup> 以下	10.38m <sup>2</sup> 以上 12.08m <sup>2</sup> 以下	3.70m <sup>3</sup> 超え 3.96m <sup>3</sup> 以下	12.86m <sup>2</sup> 以上 15.28m <sup>2</sup> 以下
	12.08m <sup>2</sup> 超え 13.76m <sup>2</sup> 以下		15.28m <sup>2</sup> 超え 17.70m <sup>2</sup> 以下
	13.76m <sup>2</sup> 超え 15.46m <sup>2</sup> 以下		17.70m <sup>2</sup> 超え 20.12m <sup>2</sup> 以下
2.60m <sup>3</sup> 超え 2.80m <sup>3</sup> 以下	10.74m <sup>2</sup> 以上 12.56m <sup>2</sup> 以下	3.96m <sup>3</sup> 超え 4.23m <sup>3</sup> 以下	13.33m <sup>2</sup> 以上 15.93m <sup>2</sup> 以下
	12.56m <sup>2</sup> 超え 14.36m <sup>2</sup> 以下		15.93m <sup>2</sup> 超え 18.51m <sup>2</sup> 以下
	14.36m <sup>2</sup> 超え 16.18m <sup>2</sup> 以下		18.51m <sup>2</sup> 超え 21.11m <sup>2</sup> 以下
2.80m <sup>3</sup> 超え 3.00m <sup>3</sup> 以下	11.12m <sup>2</sup> 以上 13.04m <sup>2</sup> 以下	4.23m <sup>3</sup> 超え 4.53m <sup>3</sup> 以下	13.87m <sup>2</sup> 以上 16.61m <sup>2</sup> 以下
	13.04m <sup>2</sup> 超え 14.96m <sup>2</sup> 以下		16.61m <sup>2</sup> 超え 19.35m <sup>2</sup> 以下
	14.96m <sup>2</sup> 超え 16.88m <sup>2</sup> 以下		19.35m <sup>2</sup> 超え 22.09m <sup>2</sup> 以下
3.00m <sup>3</sup> 超え 3.22m <sup>3</sup> 以下	11.51m <sup>2</sup> 以上 13.53m <sup>2</sup> 以下	4.53m <sup>3</sup> 超え 4.84m <sup>3</sup> 以下	14.45m <sup>2</sup> 以上 17.37m <sup>2</sup> 以下
	13.53m <sup>2</sup> 超え 15.55m <sup>2</sup> 以下		17.37m <sup>2</sup> 超え 20.27m <sup>2</sup> 以下
	15.55m <sup>2</sup> 超え 17.57m <sup>2</sup> 以下		20.27m <sup>2</sup> 超え 23.19m <sup>2</sup> 以下
3.22m <sup>3</sup> 超え 3.45m <sup>3</sup> 以下	11.94m <sup>2</sup> 以上 14.10m <sup>2</sup> 以下		
	14.10m <sup>2</sup> 超え 16.24m <sup>2</sup> 以下		
	16.24m <sup>2</sup> 超え 18.40m <sup>2</sup> 以下		

(6) 養生工の種別区分

- ① 一般
- ② 給熱

(7) 据付場所区分

- ① 陸上
- ② 水中
- ③ 据付作業無し

(8) 据付方法区分

- ① 乱積
- ② 層積

(9) クレーン機種区分

- ① ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊
- ② ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 35 t 吊
- ③ ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 45 t 吊
- ④ ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊

(10) 作業区分

- ① 積込・荷卸
- ② 積込・据付(乱積)
- ③ 積込・据付(層積)

(11) トラック 1 台当りブロック積載個数区分

1) 2.5 t 以下の場合

- ① 1 個
- ② 2 個
- ③ 3 個
- ④ 4 個
- ⑤ 5 個
- ⑥ 6 個
- ⑦ 7 個
- ⑧ 8 個
- ⑨ 9 個
- ⑩ 10 個
- ⑪ 11 個以上 15 個以下
- ⑫ 15 個超え 23 個以下

2) 2.5t を超え 5.5t 以下の場合

- ① 1 個
- ② 2 個
- ③ 3 個
- ④ 4 個

3) 5.5t を超え 11.0t 以下の場合

- ① 1 個
- ② 2 個

(12) トラック 1 台当り運搬距離

- ① 0.5km 以下
- ② 1.0km 以下
- ③ 1.5km 以下
- ④ 2.0km 以下
- ⑤ 2.5km 以下
- ⑥ 3.0km 以下
- ⑦ 3.5km 以下
- ⑧ 4.0km 以下
- ⑨ 4.5km 以下
- ⑩ 5.0km 以下
- ⑪ 5.5km 以下
- ⑫ 6.0km 以下
- ⑬ 6.5km 以下
- ⑭ 7.0km 以下
- ⑮ 7.5km 以下
- ⑯ 8.5km 以下
- ⑰ 9.5km 以下
- ⑱ 10.5km 以下
- ⑲ 11.5km 以下
- ⑳ 12.5km 以下
- ㉑ 14.0km 以下
- ㉒ 15.0km 以下

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編（共通編） 1 章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 乱積

乱積の場合は、横断面図より空体積を計算し、コンクリートブロックの空隙率を考慮し、次式より算出する。

$$N = \frac{V(1-a)}{v}$$

N = 個数 (個)

V = 空体積 (m<sup>3</sup>)

v = 1 個当り空体積 (m<sup>3</sup>/個)

a = 空隙率

(2) 層積

層積における設置間隔については、ブロックメーカーのカタログによるものとする。

(3) トラック 1 台当りブロック積載個数(n)は、ブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は、下記による。

$$n = X / W \text{ (小数以下切り捨て)}$$

X : トラック等の積載質量 (t)

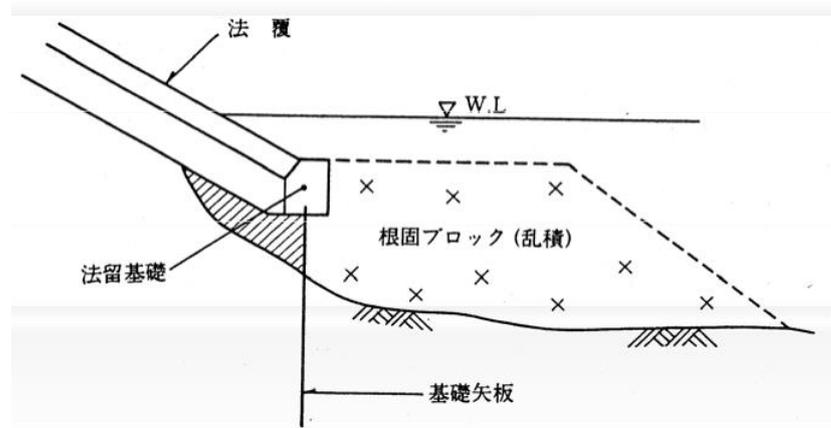
W : ブロック 1 個当たりの質量 (実質量) (t)

(4) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

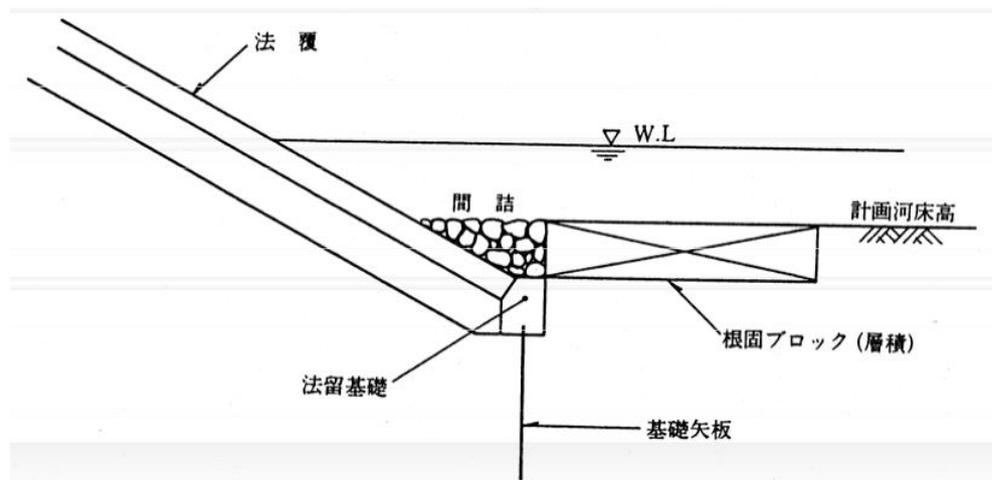
片道運搬距離が 15km を超える場合は、別途考慮すること。

## 5. 参考図

(1) 乱積



(2) 層積



## ② 消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25 t 以上 35.5 t 以下）

### 1. 適用

根固め工における根固めブロック撤去に適用する。

### 2. 数量算出項目

消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、ブロック質量、作業区分、堆砂の有無、クレーン機種とする。

#### （1）数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	ブロック 質量	作業 区分	堆砂 の有無	クレーン 機種	単位	数量	備考
根固めブロック撤去	○	○	○	○	個		

注） 1. ブロック質量は、ブロック実質量とする。

#### （2）消波根固めブロック質量区分

- ① 0.25 t 以上 6.5 t 以下
- ② 6.5 t 超 12.5 t 以下
- ③ 12.5 t 超 35.5 t 以下

#### （3）作業区分

- ① 撤去・仮置き
- ② 撤去・据付け(乱積)
- ③ 撤去・据付け(層積)
- ④ 撤去・積込み

#### （4）クレーン機種区分

- ① ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 20 t 吊
- ② ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊
- ③ ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 35 t 吊
- ④ ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 45 t 吊
- ⑤ ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊
- ⑥ クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 35～40 t 吊
- ⑦ クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 45～50 t 吊
- ⑧ クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 80 t 吊
- ⑨ クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 100 t 吊

- ⑩ クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 150 t 吊
- ⑪ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 30～35 t 吊
- ⑫ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 40～45 t 吊
- ⑬ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 50～55 t 吊
- ⑭ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 60～65 t 吊
- ⑮ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 80 t 吊
- ⑯ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 100 t 吊
- ⑰ クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 150 t 吊

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

### ③ 捨石工

#### 1. 適用

治山工事等における河川・海岸部の護岸の根固めを目的とした、捨石工の陸上からの施工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

捨石投入の体積、表面均しの面積を算出する。

#### 3. 区分

区分は、最大作業半径とする。

#### (1) 数量算出項目一覧表

項目	最大作業半径	単位	数量	備考
捨石投入	○	m <sup>3</sup>		
表面均し	×	m <sup>2</sup>		

#### (2) 最大作業半径

- ① 9m 以下
- ② 9m を超え 24m 以下

#### (3) 表面均し

- ① 施工期間中の平均水位以上の陸上部
- ② 施工期間中の平均水位未満の水中部

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

## 第5章 河川海岸維持

### ① 巨石積（張）工

#### 1. 適用

治山工事等における河川・海岸部の多自然護岸工事の巨石積工（練）及び巨石張工（練・空）、巨石採取に適用する。

#### 2. 数量算出項目

巨石積（張）面積を区分ごとに算出する。また、巨石採取の個数を算出する。

#### 3. 区分

区分は、石材径区分、遮水シートの有無、止水シートの有無、吸出し防止材の有無、裏込材の有無、裏込材規格、胴込材規格、胴込・裏込コンクリート使用量、胴込・裏込コンクリート規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	石材径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	単位	数量	備考
巨石張（練）	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m <sup>2</sup>		
巨石張（空）	○	×	×	○	○	○	○	×	×	m <sup>2</sup>		
巨石積（練）	○	○	○	×	○	○	×	○	○	m <sup>2</sup>		
巨石採取	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		

注) 1. 巨石積工は法勾配 1 : 1 未満、巨石張工は法勾配 1 : 1 以上の場合である。

2. 巨石採取は、機械により現地採取する場合に計上する。

#### (2) 石材径区分

石材径は、最大径と最小径の平均値とする。

- ① 40cm 以上 60cm 未満
- ② 60cm 以上 80cm 未満
- ③ 80cm 以上 100cm 以下

#### (3) 胴込・裏込材規格

- ① 再生クラッシュラン RC-40
- ② 再生クラッシュラン RC-80

- ③ クラッシュラン C-40
- ④ クラッシュラン C-80
- ⑤ 碎石各種

(4) 胴込・裏込コンクリート使用量

- ① 0.5m<sup>3</sup> 以上 1.0m<sup>3</sup> 以下
- ② 1.0m<sup>3</sup> を超え 1.5m<sup>3</sup> 以下
- ③ 1.5m<sup>3</sup> を超え 2.0m<sup>3</sup> 以下
- ④ 2.0m<sup>3</sup> を超え 2.5m<sup>3</sup> 以下
- ⑤ 2.5m<sup>3</sup> を超え 3.0m<sup>3</sup> 以下
- ⑥ 3.0m<sup>3</sup> を超え 3.5m<sup>3</sup> 以下
- ⑦ 3.5m<sup>3</sup> を超え 4.0m<sup>3</sup> 以下
- ⑧ 4.0m<sup>3</sup> を超え 4.5m<sup>3</sup> 以下
- ⑨ 4.5m<sup>3</sup> を超え 5.0m<sup>3</sup> 以下

(5) 胴込・裏込コンクリート規格

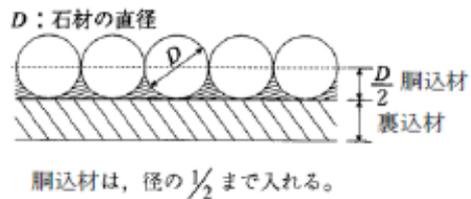
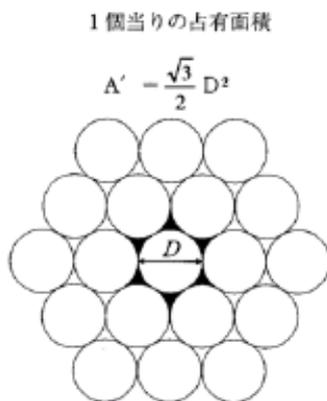
- ① 18-8-25(20)
- ② 18-8-40
- ③ 19.5-8-40
- ④ 18-5-40(高炉)
- ⑤ 18-8-25(20)(高炉)
- ⑥ 18-8-40(高炉)
- ⑦ 19.5-8-40(高炉)
- ⑧ 生コンクリート各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 基本数量の算出基準

石材及び胴込・裏込材の基本数量の算出



石材の基本数量表

径 (m)	体積 (m <sup>3</sup> /個)	面積 (m <sup>2</sup> /個)	占有面積 (m <sup>2</sup> /個)	10m <sup>2</sup> 当り基本数量 (個)
D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$

裏込・胴込材の基本数量表

工 種	裏込材		胴込材	
	種 類	10m <sup>2</sup> 当り 基本数量(m <sup>3</sup> )	種 類	10m <sup>2</sup> 当り 基本数量(m <sup>3</sup> )
空石張	砕石等	施工厚(m)×10(m <sup>2</sup> )	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10 m^2) - (V \times N)] / 2$
練石張 及び 練石積	砕石等及び コンクリート	施工厚(m)×10(m <sup>2</sup> )	コンクリート	$[(D \times 10 m^2) - (V \times N)] / 2$

(2) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「コンクリートブロック積(張)工」によるものとする。

## ② 護岸基礎ブロック工

### 1. 適用

治山工事等における河川・海岸部の護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック製品長2m、3.3m、4m、5m）の施工に適用する。

### 2. 数量算出項目

基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、中詰材の種類、ブロック製品長、ブロック下幅、生コンクリート規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	生コンクリート規格	単位	数量	備考
プレキャスト基礎		○	○	○	○	m		
プレキャスト基礎（材料費）		×	○	×	×	m		
中詰コンクリート打設		×	×	×	○	m <sup>3</sup>		
中詰コンクリート（材料費）		×	×	×	○	m		

#### (2) 中詰材区分

- ① コンクリート
- ② その他または無し

#### (3) ブロック製品長区分

- 1) コンクリートの場合
  - ① 2,000mm
  - ② 3,300mm
  - ③ 5,000mm
- 2) その他または無しの場合
  - ① 2,000mm
  - ② 3,300mm
  - ③ 4,000mm
  - ④ 5,000mm

#### (4) ブロック下幅区分

- 1) コンクリートの場合
  - ① 500mm 以上 600mm 未満

- ② 600mm 以上 700mm 未満
- ③ 700mm 以上 900mm 未満
- ④ 900mm 以上 1,100mm 未満
- ⑤ 1,100mm 以上

2) その他または無しの場合

- ① 400mm 以上 500mm 未満
- ② 500mm 以上 600mm 未満
- ③ 600mm 以上 700mm 未満
- ④ 700mm 以上 900mm 未満
- ⑤ 900mm 以上 1,100mm 未満
- ⑥ 1,100mm 以上

(5) 生コンクリート規格区分

- ① 21-8-25 (20) (普通)
- ② 24-8-25(20) (普通)
- ③ 27-8-25 (20) (普通)
- ④ 30-8-25(20) (普通)
- ⑤ 40-8-25 (20) (普通)
- ⑥ 18-8-40 (普通)
- ⑦ 19.5-8-40 (普通)
- ⑧ 21-8-40 (普通)
- ⑨ 21-12-40(普通)
- ⑩ 22.5-8-40 (普通)
- ⑪ 24-8-40 (普通)
- ⑫ 4.5-2.5-40 (普通)
- ⑬ 21-8-25 (20) (高炉)
- ⑭ 24-8-25 (20) (高炉)
- ⑮ 19.5-5-40 (高炉)
- ⑯ 19.5-8-40 (高炉)
- ⑰ 18-5-40 (高炉)
- ⑱ 21-5-40 (高炉)
- ⑲ 18-8-40 (高炉)
- ⑳ 21-8-40 (高炉)
- ㉑ 24-8-40 (高炉)
- ㉒ 21-12-40 (高炉)
- ㉓ 40-8-25 (早強)
- ㉔ 21-8-25 (早強)
- ㉕ 24-8-25 (早強)
- ㉖ 18-8-25 (高炉)
- ㉗ 21-5-80 (高炉)
- ㉘ 18-3-40 (高炉)
- ㉙ 21-3-40 (高炉)
- ㉚ (各種)

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記による。

- (1) 中詰コンクリート（材料費）の数量は、プレキャスト基礎ブロック1m当りの必要量を次式により算出する。

$$\text{使用量 (m}^3\text{/m)} = \text{設計量 (m}^3\text{/m)} \times (1 + K)$$

K：ロス率

材 料	ロス率
レディーミクストコンクリート	+0.05

### ③ かごマット工

#### 1. 適用

一般部又は曲線部の鉄線かごを使用した護岸で中詰用石材が、栗石、割栗石で石径がかご厚さ 30 cm の場合概ね 5～15 cm、かご厚さ 50 cm の場合概ね 15～20 cm の法勾配 1 : 2.0 以上の施工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、かご厚さ、かご本体材質、詰石種類、詰石規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	かご厚さ	かご本体材質	詰石種類	詰石規格	単位	数量	備考
かごマット設置		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

#### (2) かご厚さ区分

- ① t=30cm
- ② t=50cm

#### (3) かご本体材質区分

- ① 亜鉛アルミメッキ
- ② 各種

#### (4) 詰石種類区分

- ① 栗石
- ② 割栗石

#### (5) 詰石規格区分

##### 1) t=30cm

- ① 5～15cm
- ② 各種

##### 2) t=50cm

- ① 15～20cm
- ② 各種

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

## ④ 袋詰玉石工

### 1. 適用

袋材（袋規格 2t 用及び 3t 用）に詰石（50mm～300mm 程度の玉石、割栗石、コンクリート殻）したものを現地で製作し、築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。なお、積み方法は、乱積み及び多段積みとする。

### 2. 数量算出項目

袋数を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、袋詰玉石用袋材規格、中詰材区分とする。

#### (1) 数量算出項目一覧表

項目 \ 区分	袋詰玉石用 袋材規格	中詰材 区分	単 位	数 量	備 考
袋 詰 玉 石	○	○	袋		

#### (2) 袋詰玉石用袋材規格区分

- ① 2t 用
- ② 3t 用

#### (3) 中詰材区分

- ① 購入材
- ② 流用又は採取材

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編（共通編） 1 章基本事項」による。

## ⑤ 笠コンクリートブロック据付工

### 1. 適用

矢板護岸工に使用する 1.1t 未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。

### 2. 数量算出項目

笠コンクリートブロックの延長を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、中詰コンクリート型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート 100m 当り設計量とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	中詰コンクリート型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート 100m 当り設計量	単位	数量	備考
笠コンクリートブロック	○	○	○	m		

#### (2) 中詰コンクリート規格区分

- ① 18-8-40 (普通)
- ② 18-8-40 (高炉)
- ③ 21-8-25(20) (普通)
- ④ 21-8-25(20) (高炉)
- ⑤ 生コンクリート各種

#### (3) 中詰コンクリート 100m 当り設計量

- ① 11m<sup>3</sup> 以上 16m<sup>3</sup> 未満
- ② 16m<sup>3</sup> 以上 23m<sup>3</sup> 未満
- ③ 23m<sup>3</sup> 以上 31m<sup>3</sup> 未満
- ④ 31m<sup>3</sup> 以上 39m<sup>3</sup> 未満
- ⑤ 39m<sup>3</sup> 以上 47m<sup>3</sup> 未満
- ⑥ 47m<sup>3</sup> 以上 56m<sup>3</sup> 未満
- ⑦ 56m<sup>3</sup> 以上 65m<sup>3</sup> 未満
- ⑧ 65m<sup>3</sup> 以上 75m<sup>3</sup> 未満
- ⑨ 75m<sup>3</sup> 以上 85m<sup>3</sup> 未満
- ⑩ 85m<sup>3</sup> 以上 96m<sup>3</sup> 未満

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。



## 第6章 地すべり防止工

### ① 地すべり防止工（集排水ボーリング工）

#### 1. 適用

地表及び集水井内において、ロータリーパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径 90～135mm、削孔長 80m 以下、削孔角度は水平±10 度以内の作業に適用する。

#### 2. 数量算出項目

ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材、足場（地表）の数量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ加工の有無、保孔管種類とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ加工の有無	保孔管種類	単位	数量	備考
ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	m		
保孔管	○	×	×	×	○	○	○	m		
ボーリング仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	回		
足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	空m <sup>3</sup>		

注) 1. 同一足場上の移動はボーリングに含む。

2. 作業足場の幅は 4.5m とする。

#### (2) 施工場所

##### 1) ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材の場合

- ① 地表
- ② 集水井内

##### 2) 足場（地表）の場合

- ① 平地
- ② 傾斜地

#### (3) 土質区分

- ① 粘性土・砂質土
- ② レキ質土

- ③ 岩塊・玉石
- ④ 軟岩

(4) 呼び径

呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。

- ① φ90mm
- ② φ115mm
- ③ φ135mm

(5) 削孔長区分

- ① 50m/本以下
- ② 50m/本を超え 80m/本以下
- ③ 80m/本を超える

(6) 保孔管種別

- ① VP
- ② SGP

注) 保孔管は VP 管 (JISK6741) を標準とするが、活動中の地すべり地区で、挿入後せん断、よじれ等により保孔管破損のおそれのある場合は SGP 管とする。

(7) ストレーナ加工の有無

1) VP の場合

- ① 有り

2) SGP の場合

- ① 有り
- ② 無し

(8) 保孔管種類区分

1) VP の場合

- ① VP40
- ② VP50
- ③ VP65
- ④ VP75
- ⑤ 各種 (VP)

2) SGP の場合

- ① SGP40A
- ② SGP50A
- ③ SGP65A
- ④ SGP80A
- ⑤ SGP90A
- ⑥ 各種 (SGP)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

## 第7章 道路舗装

### ① 路盤工

#### 1. 適用

アスファルト舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

#### 2. 数量算出項目

下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、平均厚さ、材料、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### ① 不陸整正

項目 \ 区分	補足材料 の有無	補足材料 平均厚さ	補足材料	単位	数量	備考
不陸整正	○	○	○	m <sup>2</sup>		

##### ② 下層路盤及び上層路盤

項目 \ 区分	平均 厚さ	材料	平均 幅員	瀝青 材料 種類	単位	数量	備考
下層路盤（車道・路肩部）	○	○	×	×	m <sup>2</sup>		
下層路盤（歩道部）	○	○	×	×	m <sup>2</sup>		
上層路盤（車道・路肩部）	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
上層路盤（歩道部）	○	○	×	×	m <sup>2</sup>		

#### (2) 補足材料平均厚さ区分

- ① 1mm 以上 3mm 未満
- ② 3mm 以上 6mm 未満
- ③ 6mm 以上 9mm 未満
- ④ 9mm 以上 13mm 未満
- ⑤ 13mm 以上 17mm 未満
- ⑥ 17mm 以上 21mm 未満
- ⑦ 21mm 以上 25mm 未満
- ⑧ 25mm 以上 29mm 未満
- ⑨ 29mm 以上 34mm 未満
- ⑩ 34mm 以上 39mm 未満

- ⑪ 39mm 以上 44mm 未満
- ⑫ 44mm 以上 49mm 未満
- ⑬ 49mm 以上 55mm 未満
- ⑭ 55mm 以上 61mm 未満
- ⑮ 61mm 以上 67mm 未満
- ⑯ 67mm 以上 75mm 未満

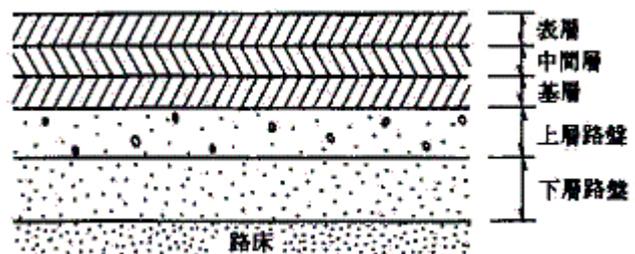
(3) 補足材料区分

- ① クラッシュラン C-20
- ② クラッシュラン C-30
- ③ クラッシュラン C-40
- ④ 再生クラッシュラン RC-20
- ⑤ 再生クラッシュラン RC-30
- ⑥ 再生クラッシュラン RC-40
- ⑦ 再生粒度調整碎石 RM-25
- ⑧ 再生粒度調整碎石 RM-30
- ⑨ 再生粒度調整碎石 RM-40
- ⑩ 粒度調整碎石 M-25
- ⑪ 粒度調整碎石 M-30
- ⑫ 粒度調整碎石 M-40
- ⑬ 補足材料(各種)

(4) 平均厚さ区分及び材料区分

路盤の平均厚さ及び材料の規格（粒調碎石 40～0、クラッシュラン 40～0 等）ごとに区分して算出する。

(アスファルト舗装の構成例)



項目	材料 瀝青材料種類	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		525mm 超 575mm 以下
		575mm 超 600mm 以下
		600mm 超 625mm 以下
		625mm 超 675mm 以下
		675mm 超 725mm 以下
		725mm 超 775mm 以下
		775mm 超 800mm 以下
		800mm 超 825mm 以下
		825mm 超 875mm 以下
875mm 超 925mm 以下		
925mm 超 975mm 以下		
975mm 超 1000mm 以下		
1000mm 超 1025mm 以下		
1025mm 超 1075mm 以下		
1075mm 超 1125mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	25mm 以上 75mm 以下
		75mm 超 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		上層路盤 (車道・路肩部)
55mm 超 65mm 以下		
65mm 超 75mm 以下		
75mm 超 85mm 以下		
85mm 超 95mm 以下		
95mm 超 100mm 以下		
再生粒度調整碎石 RM-25	25mm 以上 75mm 以下	
再生粒度調整碎石 M-30	75mm 超 125mm 以下	
再生粒度調整碎石 RM-40	125mm 超 150mm 以下	
粒度調整碎石 M-25	150mm 超 175mm 以下	
粒度調整碎石 M-30	175mm 超 225mm 以下	
粒度調整碎石 M-40	225mm 超 275mm 以下	
路盤材(各種)	275mm 超 300mm 以下	
	300mm 超 325mm 以下	
	325mm 超 375mm 以下	
	375mm 超 425mm 以下	
	425mm 超 450mm 以下	

上層路盤 (歩道部)	再生粒度調整碎石 RM-25	75mm 以上 125mm 以下
	再生粒度調整碎石 M-30	125mm 超 150mm 以下
	再生粒度調整碎石 RM-40	150mm 超 175mm 以下
	粒度調整碎石 M-25	175mm 超 225mm 以下
	粒度調整碎石 M-30	225mm 超 275mm 以下
	粒度調整碎石 M-40	275mm 超 300mm 以下
	路盤材(各種)	300mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
375mm 超 425mm 以下		

(3) 平均幅員区分

- ① 1.4m 未満
- ② 1.4m 以上

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

## ② アスファルト舗装工

### 1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカーブに適用する。

なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m<sup>3</sup>未満、2.50t/m<sup>3</sup>以上の場合を除く。

### 2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

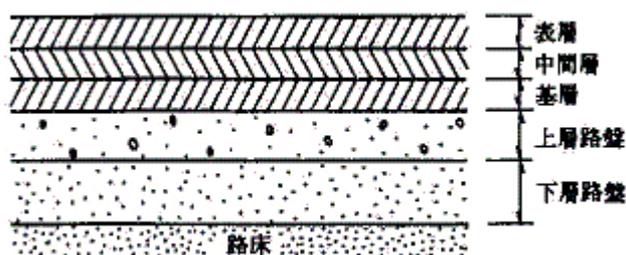
### 3. 区分

区分は、基層・中間層・表層は平均厚さ、平均幅員、材料、瀝青材料種類とし、アスカーブは断面積、材料とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類	断面積	単位	数量	備考
基層（車道・路肩部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
中間層（車道・路肩部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
表層（車道・路肩部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
基層（歩道部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
中間層（歩道部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
表層（歩道部）	○	○	○	○	×	m <sup>2</sup>		
アスカーブ	×	×	○	×	○	m		

(アスファルト舗装の構成例)



(2) 平均厚さ区分

1) 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

- ① 25mm 以上 35mm 未満
- ② 35mm 以上 45mm 未満
- ③ 45mm 以上 55mm 未満
- ④ 55mm 以上 65mm 未満
- ⑤ 65mm 以上 70mm 以下

2) 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

- ① 25mm 以上 35mm 未満
- ② 35mm 以上 45mm 未満
- ③ 45mm 以上 55mm 未満
- ④ 55mm 以上 65mm 未満
- ⑤ 65mm 以上 70mm 以下

(3) 平均幅員区分

- ① 1.4m 未満
- ② 1.4m 以上

(4) 材料区分

1) 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m <sup>3</sup> )	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m <sup>3</sup> )
密粒度アスコン(20)	2.35	細粒度アスコン(13)	2.30
密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度ギャップアスコン(20F)	〃
密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度ギャップアスコン(13F)	〃
密粒度ギャップアスコン(20)	〃	細粒度ギャップアスコン(5F)	〃
密粒度ギャップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
密粒度ギャップアスコン(20F)	〃	開粒度アスコン(13)	1.94
密粒度ギャップアスコン(13F)	〃	各種(1.90 以上 2.00t/m <sup>3</sup> 未満)	1.90 以上～2.00 未満
粗粒度アスコン(20)	〃	各種(2.00 以上 2.10t/m <sup>3</sup> 未満)	2.00 以上～2.10 未満
再生密粒度アスコン(20)	〃	各種(2.10 以上 2.20t/m <sup>3</sup> 未満)	2.10 以上～2.20 未満
再生密粒度アスコン(13)	〃	各種(2.20 以上 2.30t/m <sup>3</sup> 未満)	2.20 以上～2.30 未満
再生粗粒度アスコン(20)	〃	各種(2.30 以上 2.40t/m <sup>3</sup> 未満)	2.30 以上～2.40 未満
改質 As 粗粒 AC-100(20)	〃	各種(2.40 以上 2.50t/m <sup>3</sup> 未満)	2.40 以上～2.50 未満
改質 As 密粒 AC-100(20)	〃		
改質 As 密粒 AC-100(13)	〃		
改質 As 密粒 I 型(20)	〃		
改質 As 密粒 II 型(20) DS3000	〃		
改質 As 粗粒 I 型(20)	〃		
改質 As 粗粒 I 型(20) DS3000	〃		
改質 As 粗粒 II 型(20) DS5000	〃		
改質 As 再生粗粒 I 型(20)	〃		
改質 As 再生粗粒 I 型(20) DS3000	〃		
改質 As 再生粗粒 II 型(20) DS5000	〃		

2) 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m <sup>3</sup> )	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m <sup>3</sup> )
密粒度アスコン(20)	2.20	細粒度アスコン(13)	2.15
密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度ギャップアスコン(20F)	〃
密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度ギャップアスコン(13F)	〃
密粒度ギャップアスコン(20)	〃	細粒度ギャップアスコン(5F)	〃
密粒度ギャップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
密粒度ギャップアスコン(20F)	〃	各種 (1.90 以上 2.00t/m <sup>3</sup> 未満)	1.90 以上～2.00 未満
密粒度ギャップアスコン(13F)	〃	各種 (2.00 以上 2.10t/m <sup>3</sup> 未満)	2.00 以上～2.10 未満
粗粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.10 以上 2.20t/m <sup>3</sup> 未満)	2.10 以上～2.20 未満
再生密粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.20 以上 2.30t/m <sup>3</sup> 未満)	2.20 以上～2.30 未満
再生密粒度アスコン(13)	〃	各種 (2.30 以上 2.40t/m <sup>3</sup> 未満)	2.30 以上～2.40 未満
再生粗粒度アスコン(20)	〃		

3) アスカーブ

- ① 細粒度アスファルト混合物(13)
- ② 細粒度アスファルト混合物(13F)
- ③ 再生細粒度アスファルト混合物(13)
- ④ 再生細粒度アスファルト混合物(13F)
- ⑤ 各種 (締固め後密度 2.10 t/m<sup>3</sup>)

(5) 瀝青材料種類区分

- ① タックコート PK-4
- ② プライムコート PK-3
- ③ タックコート (各種)
- ④ プライムコート (各種)
- ⑤ 無し

(6) 断面積区分

- ① 125cm<sup>2</sup> 以上 140cm<sup>2</sup> 未満
- ② 140cm<sup>2</sup> 以上 155cm<sup>2</sup> 未満
- ③ 155cm<sup>2</sup> 以上 175cm<sup>2</sup> 未満
- ④ 175cm<sup>2</sup> 以上 195cm<sup>2</sup> 未満
- ⑤ 195cm<sup>2</sup> 以上 215cm<sup>2</sup> 未満
- ⑥ 215cm<sup>2</sup> 以上 235cm<sup>2</sup> 未満
- ⑦ 235cm<sup>2</sup> 以上 255cm<sup>2</sup> 未満
- ⑧ 255cm<sup>2</sup> 以上 280cm<sup>2</sup> 未満
- ⑨ 280cm<sup>2</sup> 以上 300cm<sup>2</sup> 未満

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

### ③ 踏掛版

#### 1. 適用

厚さ 0.35m以上 0.6m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。  
ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋（D38 以上 D51 以下）の場合には適用しない。

#### 2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。

##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	コンクリート 規格	鉄筋量	ゴム支承の 有無	鉄筋材料 規格・径	単位	数量	備考
踏掛版	○	○	○	○	m <sup>3</sup>		

- 注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。  
2. 鉄筋量は、踏掛版 1 箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。  
3. 路盤材の敷設は含まない。  
4. コンクリートのロスを含む。

##### (2) コンクリート規格区分

- ① 21-8-25 (20) (普通)
- ② 24-8-25(20) (普通)
- ③ 27-8-25 (20) (普通)
- ④ 30-8-25(20) (普通)
- ⑤ 40-8-25 (20) (普通)
- ⑥ 18-8-40 (普通)
- ⑦ 19.5-8-40 (普通)
- ⑧ 21-8-40 (普通)
- ⑨ 21-12-40(普通)
- ⑩ 22.5-8-40 (普通)
- ⑪ 24-8-40 (普通)
- ⑫ 4.5-2.5-40 (普通)
- ⑬ 21-8-25 (20) (高炉)
- ⑭ 24-8-25 (20) (高炉)
- ⑮ 19.5-5-40 (高炉)
- ⑯ 19.5-8-40 (高炉)
- ⑰ 18-5-40 (高炉)

- ⑮ 21-5-40 (高炉)
- ⑯ 18-8-40 (高炉)
- ⑰ 21-8-40 (高炉)
- ⑱ 24-8-40 (高炉)
- ㉑ 21-12-40 (高炉)
- ㉒ 40-8-25 (早強)
- ㉓ 21-8-25 (早強)
- ㉔ 24-8-25 (早強)
- ㉕ 18-8-25 (高炉)
- ㉖ 21-5-80 (高炉)
- ㉗ 18-3-40 (高炉)
- ㉘ 21-3-40 (高炉)
- ㉙ (各種)

(3) 鉄筋量区分

- ① 0.08t/m<sup>3</sup> 以上 0.10t/m<sup>3</sup> 未満
- ② 0.10t/m<sup>3</sup> 以上 0.12t/m<sup>3</sup> 未満
- ③ 0.12t/m<sup>3</sup> 以上 0.14t/m<sup>3</sup> 未満
- ④ 0.14t/m<sup>3</sup> 以上 0.16t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑤ 0.16t/m<sup>3</sup> 以上 0.18t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑥ 0.18t/m<sup>3</sup> 以上 0.20t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑦ 0.20t/m<sup>3</sup> 以上 0.22t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑧ 0.22t/m<sup>3</sup> 以上 0.24t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑨ 0.24t/m<sup>3</sup> 以上 0.26t/m<sup>3</sup> 未満
- ⑩ 0.26t/m<sup>3</sup> 以上 0.28t/m<sup>3</sup> 未満

(4) 鉄筋材料規格・径区分

- ① SD295 D10
- ② SD295 D13
- ③ SD295 D16
- ④ SD345 D10
- ⑤ SD345 D13
- ⑥ SD345 D16～D25
- ⑦ SD345 D29～D32
- ⑧ SD345 D35
- ⑨ 各種

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) 作業土工は、「第I編2章土工」によるものとする。



## 第8章 道路付属施設

### ① 雪崩予防柵設置工

#### 1. 適用

道路または治山工事において、固定基礎を有する固定柵及び固定アンカーを有しワイヤーで柵を吊っている吊柵の雪崩予防柵設置工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

雪崩予防柵、雪崩予防柵（材料費）、吊柵アンカー、パイプアンカー（材料費）、樹脂アンカー（材料費）、簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去の数量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、柵種類、クレーン機種、持上範囲、吊柵アンカー規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊柵アンカー規格	単位	数量	備考
雪崩予防柵	○	○	○	×	基		
雪崩予防柵 （材料費）	×	×	×	×	基		
吊柵アンカー	×	×	×	○	本		
パイプアンカー （材料費）	×	×	×	×	本		
樹脂アンカー （材料費）	×	×	×	×	本		
簡易ケーブルクレーン （1 t 吊） 設置・撤去	×	×	×	×	基		

#### (2) 柵種類区分

- ① 固定柵
- ② 吊柵

#### (3) クレーン機種区分

- ① トラッククレーン
- ② ラフテレーンクレーン
- ③ 簡易ケーブルクレーン

#### (4) 持上範囲区分

- ① 15m 未満
- ② 15m 以上 20m 未満
- ③ 20m 以上 45m 以下
- ④ 130m 以下

(5) 吊柵アンカー規格区分

- ① パイプアンカー
- ② 樹脂アンカー

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
土工（固定基礎工事）	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
コンクリート（固定基礎工事）	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
型枠（固定基礎工事）	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上
足場工（固定基礎工事・法面作業等）	掛 m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上
基礎材（固定基礎工事）	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

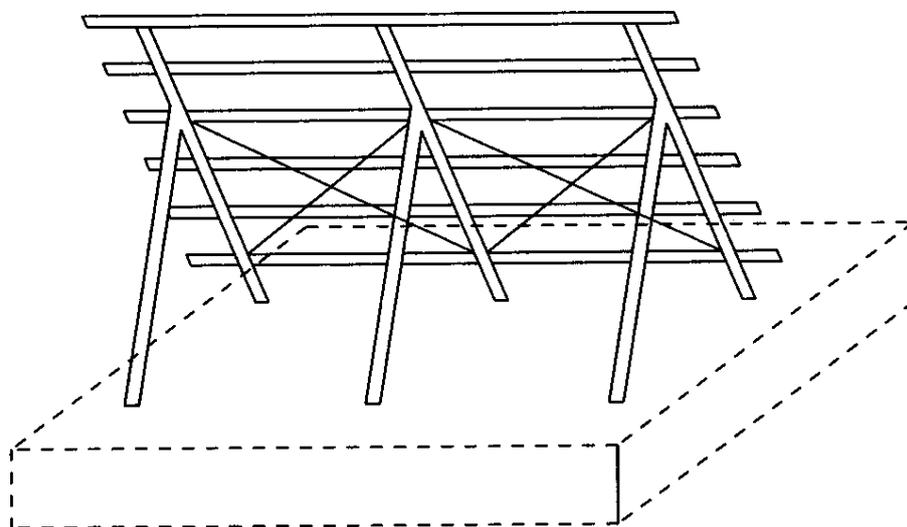
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) 雪崩予防柵（材料費）は、規格ごとに基数を算出する。
- (2) パイプアンカー（材料費）又は樹脂アンカー（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。
- (3) 持上範囲は、トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高までの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高までの直高とする。
- (4) 簡易ケーブルクレーンの設置基数は、現場条件又は、布設箇所への現場内小運搬等を考慮して決定する。

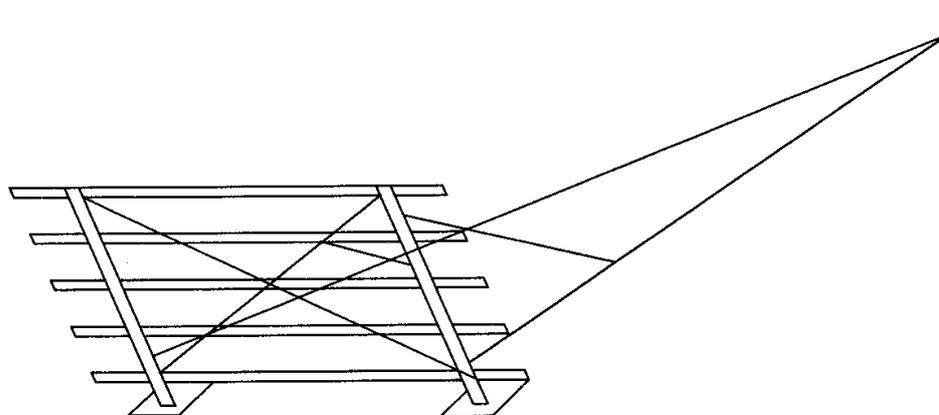
## 5. 参考図（雪崩予防柵設置工の種類）

雪崩予防柵の種類は下図のとおりである。

- 1) 固定柵 — 固定基礎を有する柵



- 2) 吊柵 — 固定アンカーを有しワイヤ等で柵を吊っているもの



## ② 道路付属物設置工

### 1. 適用

距離標の設置工及び撤去工に適用する。

### 2. 数量算出項目

距離標の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、作業区分、基礎形式とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	作業区分	基礎形式			
距離標	○	○	本		

#### (2) 作業区分

- ① 設置
- ② 撤去

#### (3) 基礎形式区分

- ① 土中埋込用
- ② 構造物取付用

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

## 第9章 道路維持修繕

### ① 路面切削工

#### 1. 適用

路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、施工区分、段差すりつけの撤去作業、DID区間の有無、運搬距離とする。

##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	施工区分(平均切削深さ)	段差すりつけの撤去作業	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
路面切削		○	○	×	×	m <sup>2</sup>		
殻運搬(路面切削)		×	×	○	○	m <sup>3</sup>		

##### (2) 施工区分(平均切削深さ)

- ① 全面切削 6cm 以下(4000 m<sup>2</sup> 以下)
- ② 全面切削 6cm 以下(4000 m<sup>2</sup> を超え)
- ③ 全面切削 6cm を超え 12cm 以下
- ④ 帯状切削 3cm 以下

##### (3) 運搬距離区分

###### 1) DID 無しの場合

- ① 0.2km 以下
- ② 0.5km 以下
- ③ 1.0km 以下
- ④ 1.5km 以下
- ⑤ 2.0km 以下
- ⑥ 2.5km 以下
- ⑦ 3.0km 以下
- ⑧ 3.5km 以下
- ⑨ 4.0km 以下
- ⑩ 4.5km 以下
- ⑪ 5.0km 以下
- ⑫ 5.5km 以下
- ⑬ 6.5km 以下
- ⑭ 7.5km 以下
- ⑮ 9.0km 以下
- ⑯ 10.5km 以下
- ⑰ 12.0km 以下

- ⑱ 13.5km 以下
  - ⑲ 16.0km 以下
  - ⑳ 18.5km 以下
  - ㉑ 21.5km 以下
  - ㉒ 26.0km 以下
  - ㉓ 32.0km 以下
  - ㉔ 39.5km 以下
  - ㉕ 47.0km 以下
  - ㉖ 55.5km 以下
  - ㉗ 60.0km 以下
- 2) DID 有りの場合
- ① 0.2km 以下
  - ② 0.5km 以下
  - ③ 1.0km 以下
  - ④ 1.5km 以下
  - ⑤ 2.0km 以下
  - ⑥ 2.5km 以下
  - ⑦ 3.0km 以下
  - ⑧ 3.5km 以下
  - ⑨ 4.0km 以下
  - ⑩ 4.5km 以下
  - ⑪ 5.0km 以下
  - ⑫ 5.5km 以下
  - ⑬ 6.0km 以下
  - ⑭ 6.5km 以下
  - ⑮ 7.5km 以下
  - ⑯ 8.5km 以下
  - ⑰ 9.5km 以下
  - ⑱ 11.0km 以下
  - ⑲ 12.5km 以下
  - ⑳ 14.5km 以下
  - ㉑ 16.5km 以下
  - ㉒ 19.0km 以下
  - ㉓ 22.0km 以下
  - ㉔ 25.5km 以下
  - ㉕ 30.0km 以下
  - ㉖ 36.0km 以下
  - ㉗ 46.0km 以下
  - ㉘ 60.0km 以下

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

##### (1) 平均切削深

平均切削深（H）は、次式により算出する。

$$H = \frac{A v}{W} \times 100$$

H : 1現場の平均切削深さ（cm）

A v : 1現場の平均切削断面積（m<sup>2</sup>）

W : 平均切削幅員（m）

なお、帯状切削の場合は、W = 2 mとする。

(2) 帯状切削の施工面積

帯状切削の施工面積は、次式により算出する。

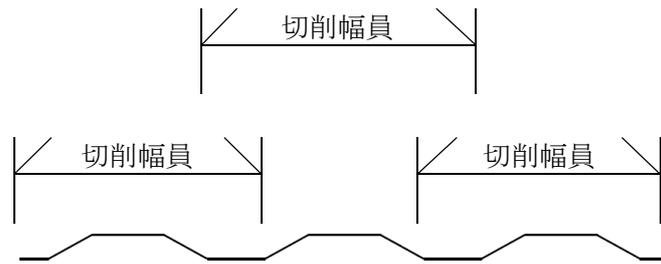
延べ施工面積＝切削機の作業幅（2 m）×延べ施工延長

- (3) 1 施工箇所において、全面切削と帯状切削が混在する場合は、全面、帯状ごとに数量を算出する。

5. 参考図

(1) 全面切削

(切削幅が重複作業となるような作業形態の場合)



(2) 帯状切削

不陸部の切削幅が、路面切削機の切削幅より狭く、切削幅が重複作業とならない作業形態の場合



## ② 舗装版破碎工

### 1. 適用

機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版、または人力によるアスファルト舗装版の破碎作業及び掘削・積込の作業に適用する。

ただし、急速施工、機械による橋梁舗装版撤去の場合、人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破碎作業及び掘削・積込の場合、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において全体厚が 45cm を超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が 50%を超える場合を除く。

### 2. 数量算出項目

舗装版破碎面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、舗装版種類、舗装版破碎厚さとする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分 舗装版別	舗装版破碎厚さ		単位	数量	備考
		アスファルト舗装	コンクリート舗装			
舗装版破碎面積				m <sup>2</sup>		注) 3
舗装版破碎量	○	○	○	(t) m <sup>3</sup>	( )	

注) 1. 舗装版破碎量は、舗装版破碎前の体積として算出する。

2. アスファルト殻、コンクリート殻の運搬が必要な場合は、運搬距離 (km) を算出する。殻運搬は「殻運搬」により別途算出する。

3. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合は、備考欄に全体厚を明記する。

#### (2) 舗装版種別区分

- ① アスファルト舗装版
- ② コンクリート舗装版
- ③ コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版

#### (3) 舗装版厚さ区分

- 1) アスファルト舗装版（障害物無し 騒音振動対策不要）
  - ① 10cm 以下
  - ② 10cm を超え 15cm 以下

- ③ 15cm を超え 40cm 以下
- 2) アスファルト舗装版 (障害物無し 騒音振動対策必要)
  - ① 15cm 以下
  - ② 15cm を超え 35cm 以下
- 3) アスファルト舗装版 (障害物有り)
  - ① 4cm 以下
  - ② 4cm を超え 10cm 以下
  - ③ 10cm を超え 15cm 以下
  - ④ 15cm を超え 30cm 以下
- 4) コンクリート舗装版 (障害物無し 騒音振動対策不要)
  - ① 10cm 以下
  - ② 10cm を超え 15cm 以下
  - ③ 15cm を超え 35cm 以下
- 5) コンクリート舗装版 (障害物無し 騒音振動対策必要)
  - ① 15cm 以下
  - ② 15cm を超え 35cm 以下
- 6) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版
  - ① 15cm 以上 35cm 以下

- (4) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装によるアスファルト舗装版厚さ区分
  - ① 15cm 以下
  - ② 15cm を超え 22.5cm 以下

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

### ③ 舗装版切断工

#### 1. 適用

コンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の切断工に適用する。

ただし、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、舗装版厚のうちアスファルト舗装版が占める割合が50%を超える場合を除く。

#### 2. 数量算出項目

舗装版切断の延長を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、舗装版種別、舗装版切断厚さとする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	舗装版 種別	舗装版切断厚さ (cm)		数量 (m)	備考	
		全体厚	全体厚の内コン クリート舗装版 厚 注)2			
舗装版 切 断	○	t=○cm以下	tc=○cm以下	t= (tc= )	L=	
				∫	∫	
				t= (tc= )	L=	
				計	L=	
		t=○cm以下	tc=○cmを超え tc=○cm以下	t= (tc= )	L=	
				∫	∫	
				t= (tc= )	L=	
				計	L=	
合 計				∑L =	m	

注) 1. 区分ごとに上表を集計する。

2. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、必要となる。

#### (2) 舗装版種別区分及び厚さ区分

##### 1) アスファルト舗装版のみ切断

① 15cm 以下

② 15cm を超え 30cm 以下

- ③ 30cm を超え 40cm 以下
- 2) コンクリート舗装版のみ切断
  - ① 15cm 以下
  - ② 15cm を超え 30cm 以下
- 3) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版
  - ① 15cm 以上
  - ② 15cm を超え 35cm 以下

(4) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の全体厚区分

- 1) 15cm 以下の場合
  - ① 15cm 以下
  - ② 30cm 以下
- 2) 15cm を超え 35cm 以下の場合
  - ① 30cm 以下
  - ② 40cm 以下

**4. 数量算出方法**

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

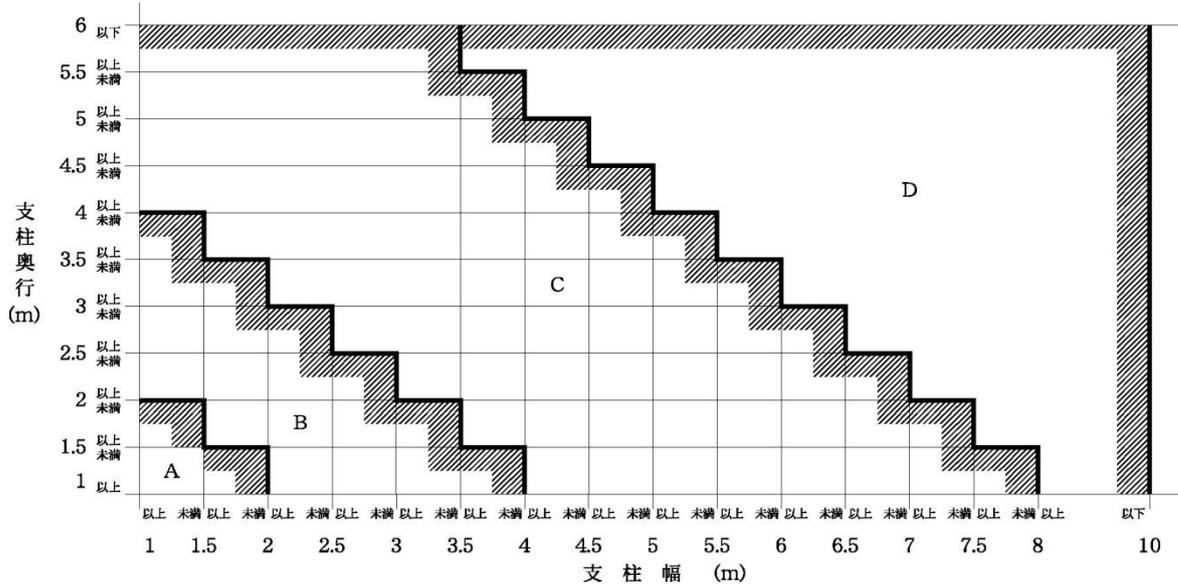
#### ④ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）

##### 1. 適用

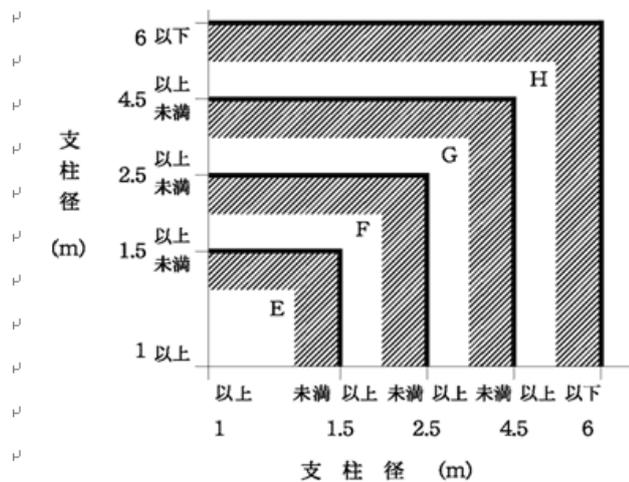
RC 橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強に鋼板巻立てを行う場合に適用する。

##### 適用できる範囲

- ・矩形（小判形を含む）支柱の幅及び奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。）



- ・円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）



（注）支柱幅・支柱奥行・支柱径は、補強前の支柱寸法とする。

- ・足場は枠組足場とし、手摺先行型とする。

## 2. 数量算出項目

鋼板巻立て（材料費）、スタッドジベル（材料費）、鋼板巻立て、シール材（材料費）、注入材（材料費）、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、アンカー筋（材料費）、アンカー注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

## 3. 区分

区分は、支柱区分、注入材材質、溶接種別、板厚区分、削孔深とする。

### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	支柱区分	注入材材質	溶接種別	板厚区分	削孔深	単位	数量	備考
鋼板巻立て (材料費)	×	×	×	×	×	t		
スタッドジベル (材料費)	×	×	×	×	×	本		
鋼板巻立て	○	○	×	×	×	m <sup>2</sup>		
シール材 (材料費)	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		
注入材 (材料費)	×	○	×	×	×	m <sup>2</sup>		
現場溶接	×	×	○	○	×	m		
フーチング アンカー 削孔・定着	×	×	×	×	○	箇所		
アンカー筋 (材料費)	×	×	×	×	×	本		
アンカー注入材 (材料費)	×	×	×	×	×	本		

### (2) 支柱区分

- ① A支柱
- ② B支柱
- ③ C支柱
- ④ D支柱
- ⑤ E支柱
- ⑥ F支柱
- ⑦ G支柱
- ⑧ H支柱

### (3) 注入材材質区分

- ① 無収縮モルタル
- ② エポキシ樹脂

(4) 溶接種別区分

- ① すみ肉脚長 6mm
- ② 補強鋼板部(V 型・L 型)

(5) 板厚区分 (溶接種別が補強鋼板部(V 型・L 型)の場合のみ)

- ① 6mm, 9mm, 10mm
- ② 12mm, 13mm
- ③ 14mm, 15mm
- ④ 16mm, 19mm
- ⑤ 21mm, 22mm

(6) 削孔深区分

- ① 0.8m以上 1.0m未満
- ② 1.0m以上 1.2m未満
- ③ 1.2m以上 1.4m未満
- ④ 1.4m以上 1.6m未満

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
現場塗装工	m <sup>2</sup>		
鉄筋工	t		「鉄筋工」参照
型枠	m <sup>2</sup>		「型枠工」参照
コンクリート (根巻きコンクリート工)	m <sup>3</sup>		「コンクリート工」参照

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 鋼板巻立て (材料費) は、規格ごとの質量 (t) を算出する。

なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、形状、ブラケットの有無、塗装の仕様等を明記する。

番号	鋼板規格
①	円形補強鋼板(ブラケット有)
②	円形補強鋼板(ブラケット無)
③	矩形補強鋼板(ブラケット有)
④	矩形補強鋼板(ブラケット無)
⑤	下端拘束用円形鋼板
⑥	下端拘束用形鋼
⑦	各種

注) 鋼板の塗装系はC-5系 (上塗りまで含む) を標準とする。

(2) スタッドジベル（材料費）は、規格ごとの本数を算出する。

なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、径、長さ等を明記する。

番号	スタッドジベル規格
①	φ19×250
②	φ22×250
③	各種

注) 工場制作品を標準とする。

(3) シール材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。

縁部、パイプ周りについて、下記の式より必要数量を算出する。

「シール断面積×シール延長×単位質量 1,700(kg/m<sup>3</sup>) × (1 + 割増率)」

割増率は、下表に示す値とする。

支柱区分	割増率	
	注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合
A支柱	0.56	0.47
B支柱	0.54	0.46
C支柱	0.53	0.43
D支柱	0.50	0.41
E支柱	0.60	0.49
F支柱	0.56	0.47
G支柱	0.54	0.44
H支柱	0.53	0.43

(4) 注入材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。

1)無収縮モルタルの場合

下記の式より必要数量を算出する。

「(鋼板取付面積 10(m<sup>2</sup>) ×注入厚 0.03(m)－裏当て鋼板体積)

×単位質量 1,850(kg/m<sup>3</sup>) × (1 + 割増率) /10(m<sup>2</sup>)」

割増率は下表に示す値とする。

支柱区分	割増率
A支柱	0.58
B支柱	0.55
C支柱	0.54
D支柱	0.52
E支柱	0.61
F支柱	0.58
G支柱	0.55
H支柱	0.54

2) エポキシ樹脂の場合

下記の式より必要数量を算出する。

$$\left[ (\text{鋼板取付面積 } 10(\text{m}^2) \times \text{注入厚 } 0.005(\text{m}) - \text{裏当て鋼板体積}) \right. \\ \left. \times \text{単位質量 } 1,200(\text{kg}/\text{m}^3) \times (1 + \text{割増率}) \right] / 10(\text{m}^2)$$

割増率は下表に示す値とする。

支柱区分	割増率
A支柱	0.42
B支柱	0.41
C支柱	0.38
D支柱	0.36
E支柱	0.44
F支柱	0.42
G支柱	0.39
H支柱	0.38

(5) アンカー筋（材料費）は、規格（径、長さ等）ごとの本数を算出する。

(6) アンカー注入材（材料費）の使用量は、下表を標準とする。

（削孔深 1m・100 箇所当り）

アンカー筋径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)
D16	26	46
D19	29	52
D22	32	59
D25	35	65
D29	39	74
D32	42	80
D35	45	87
D38	48	93

ただし、これにより難い場合は、次式によるものとする。

$$\text{使用量}(\text{kg}) = [(D^2 - d^2) \times \pi \times 1 / 4 \times L \times 100 \text{ 箇所}] \times M \times (1 + K) / 100 \text{ 箇所}$$

D：削孔径 (m)

d：アンカー筋径 (m)

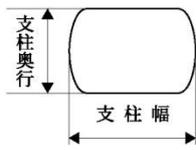
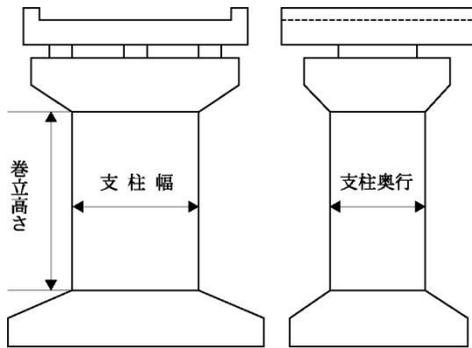
L：削孔深 (m)

M：単価質量は 1,200 kg/m<sup>3</sup> とする。

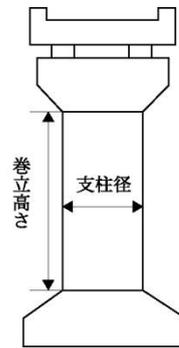
K：ロス率は+0.14 とする。

## 5. 支柱概念図

(1) 矩形（小判形を含む）支柱



(2) 円形支柱



## ⑤ 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）

### 1. 適用

「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」が適用できる寸法の範囲を外れた橋脚の鋼板巻立てに適用する。

参考（橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）が適用できる寸法の範囲以外）

- ・ 矩形、小判型支柱（幅1～10m、奥行き1～6m）、円形支柱（径1～6m）以外の橋脚の場合

### 2. 数量算出項目

鋼板巻立て（材料費）、鋼板取付、シール材（材料費）、注入材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

注）鋼板巻立て（材料費）は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」によるものとする

### 3. 区分

区分は、注入材材質とする。

#### （1）数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	注入材材質	単位	数量	備考
鋼板巻立て （材料費）	×		t		「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」参照
鋼板取付	○		m <sup>2</sup>		
シール材 （材料費）	×		m <sup>2</sup>		
注入材 （材料費）	○		m <sup>2</sup>		

#### （2）注入材材質区分

- ① 無収縮モルタル
- ② エポキシ樹脂

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場工	掛 m <sup>2</sup>		「橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2）」参照
現場溶接	m		「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」参照
フーチングアンカー削孔・定着	箇所		「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」参照
アンカー筋（材料費）	本		「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」参照
アンカー注入材（材料費）	本		「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」参照
現場塗装工	m <sup>2</sup>		
鉄筋工	t		「鉄筋工」参照
型枠	m <sup>2</sup>		「型枠工」参照
コンクリート（根巻きコンクリート工）	m <sup>3</sup>		「コンクリート工」参照

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) シール材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。  
 縁部、パイプ周りについて、下記の式より必要数量を算出する。  
 「シール断面積×シール延長×単位質量 1,700(kg/m<sup>3</sup>) × (1 + 割増率)」  
 割増率は下表に示す値とする。

割増率	
注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合
0.43	0.36

- (2) 注入材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。

1) 無収縮モルタルの場合

下記の式より必要数量を算出する。

$$\left[ (\text{鋼板取付面積 } 10(\text{m}^2) \times \text{注入厚 } 0.03(\text{m}) - \text{裏当て鋼板体積}) \right. \\ \left. \times \text{単位質量 } 1,850(\text{kg}/\text{m}^3) \times (1 + \text{割増率}) \right] / 10(\text{m}^2)$$

割増率は+0.44 とする。

2) エポキシ樹脂の場合

下記の式より必要数量を算出する。

$$\left[ (\text{鋼板取付面積 } 10(\text{m}^2) \times \text{注入厚 } 0.005(\text{m}) - \text{裏当て鋼板体積}) \right. \\ \left. \times \text{単位質量 } 1,200(\text{kg}/\text{m}^3) \times (1 + \text{割増率}) \right] / 10(\text{m}^2)$$

割増率は+0.31 とする。

## ⑥ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）

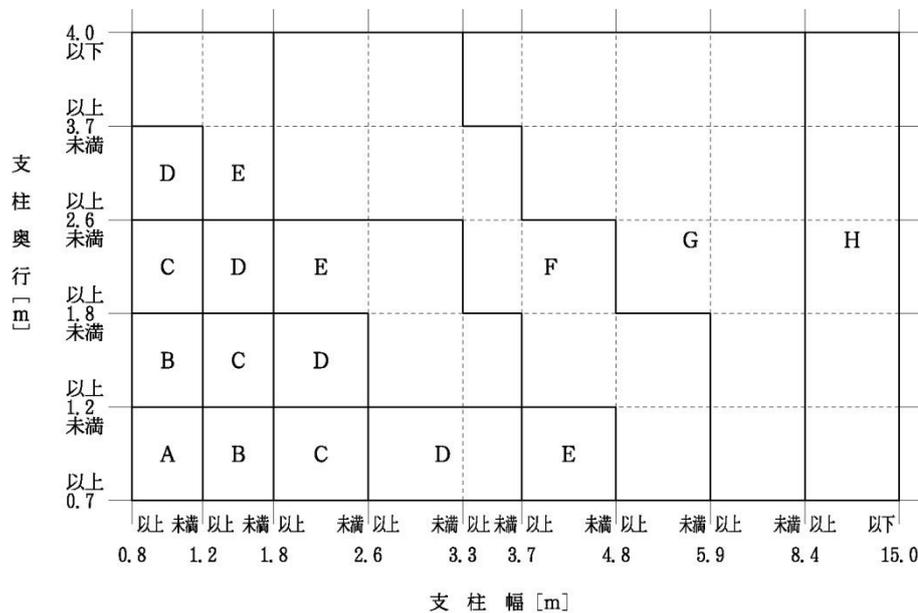
### 1. 適用

R C橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強用コンクリート巻立て工を行う場合に適用する。

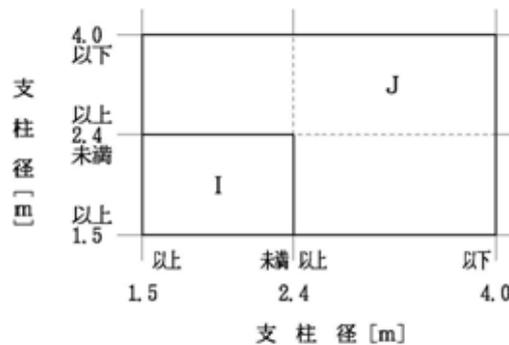
ただし、エポキシ樹脂系注入材によるアンカー定着の場合に限り、梁及びフーチングの補強には適用しない。

適用できる範囲

- ・ 矩形（小判形を含む）支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。）



- ・ 円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）



## 2. 数量算出項目

コンクリート削孔、アンカー筋（材料費）、コンクリート巻立ての数量を区分ごとに算出する。

## 3. 区分

区分は、アンカー材径、削孔深、支柱区分、施工内容、生コンクリート規格、養生工の有無とする。

### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考
コンクリート削孔	○	○	×	×	×	×	箇所		
アンカー筋（材料費）	×	×	×	×	×	×	本		
コンクリート巻立て	×	×	○	○	○	○	m <sup>3</sup>		

### (2) アンカー材径及び削孔深区分

#### 1) D16

- ① 200mm 以上250mm 未満
- ② 250mm 以上300mm 未満
- ③ 300mm 以上360mm 以下

#### 2) D19

- ① 200mm 以上250mm 未満
- ② 250mm 以上300mm 未満
- ③ 300mm 以上350mm 未満
- ④ 350mm 以上400mm 以下

#### 3) D22

- ① 300mm 以上350mm 未満
- ② 350mm 以上420mm 未満
- ③ 420mm 以上500mm 未満
- ④ 500mm 以上580mm 以下

#### 4) D25

- ① 320mm 以上390mm 未満
- ② 390mm 以上460mm 未満
- ③ 460mm 以上540mm 未満
- ④ 540mm 以上600mm 未満

#### 5) D29

- ① 400mm 以上460mm 未満

- ② 460mm 以上530mm 未満
- ③ 530mm 以上600mm 未満
- ④ 600mm 以上700mm 以下

6) D32

- ① 400mm 以上460mm 未満
- ② 460mm 以上530mm 未満
- ③ 530mm 以上600mm 未満
- ④ 600mm 以上690mm 以下

7) D35

- ① 480mm 以上540mm 未満
- ② 540mm 以上600mm 未満
- ③ 600mm 以上670mm 未満
- ④ 670mm 以上760mm 以下

(3) 支柱区分

- ① A支柱
- ② B支柱
- ③ C支柱
- ④ D支柱
- ⑤ E支柱
- ⑥ F支柱
- ⑦ G支柱
- ⑧ H支柱
- ⑨ I支柱
- ⑩ J支柱

(4) 施工内容区分

- ① a 施工
- ② b 施工
- ③ c 施工
- ④ d 施工

注) 各施工内容に含まれている施工区分・施工内容は、次表とする。

施工区分・施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
足場設置・撤去工	○	○	—	—
下地処理工	○	—	○	—
型枠設置・撤去工	○	○	○	○
コンクリート打設工	○	○	○	○
コンクリート養生工	○	○	○	○

(注) 「○」が施工内容に含まれている。

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
鉄筋工	t		
特別な養生	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上

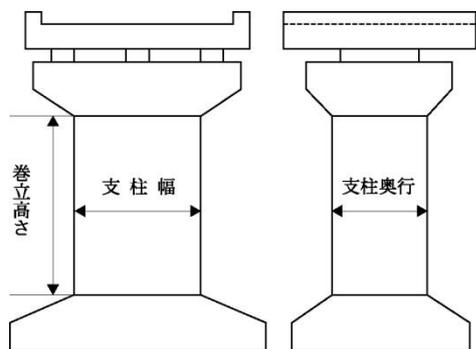
#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

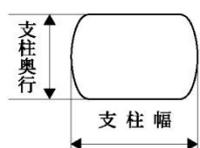
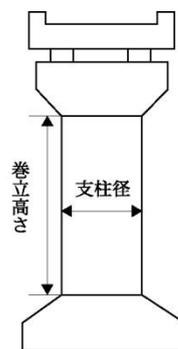
- (1) アンカー筋（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。
  - 注) 1. アンカーの材料は、加工・組立が不要なアンカー材（製品）を標準とする。
  2. 鉄筋（異形棒鋼）をアンカー材として使用する場合は、「鉄筋工」により、別途使用質量を算出する。
- (2) 削孔径は、アンカー材径+10mm とする。
- (3) 下地処理は、チップングを標準とする。
- (4) 足場は、枠組足場（手摺先行型）を標準とし、単管足場及び単管傾斜足場を使用する場合には別途考慮する。
- (5) 養生工の有無は、養生工の種類（一般養生、特殊養生（練炭）及び特殊養生（ジェットヒータ））にかかわらず適用できる。
- (6) 保温養生等の特別な養生を必要とする場合は養生工無しを選択し、養生は、「コンクリート工」により別途考慮する。

## 5. 支柱概念図

(1) 矩形（小判形を含む）支柱



(2) 円形支柱



## ⑦ 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2）

### 1. 適用

「橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」が適用範囲外のRC橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）のコンクリート巻立て工における足場工、下地処理工、型枠工、コンクリート工に適用する。なお、支柱の断面形状が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。

参考（橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）が適用できる寸法の範囲以外）

- ・矩形、小判型支柱（幅 0.8～15.0m、奥行 0.7～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合
- ・円形支柱（径 1.5～4.0m）の巻立て厚 0.25m のコンクリート巻立て補強以外の場合

### 2. 数量算出項目

足場（適用範囲外コンクリート巻立て）、下地処理（適用範囲外コンクリート巻立て）、型枠（適用範囲外コンクリート巻立て）、コンクリート（適用範囲外コンクリート巻立て）の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、型枠種別、生コンクリート規格、養生工の有無とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	型枠種別	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考
足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	掛m <sup>2</sup>		
下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	m <sup>2</sup>		
型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		○	×	×	m <sup>2</sup>		
コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	○	○	m <sup>3</sup>		

- 注) 1. 足場は、枠組足場（手摺先行型）を標準とする。  
 2. 単管足場及び単管傾斜足場については別途考慮する。  
 3. 下地処理は、チップングを標準とする。  
 4. 一般型枠の場合は、小判形支柱の両端部は含むが、円形支柱 3 m以下の円形部分には適用しない。

### （2）型枠種別区分

- ① 一般型枠
- ② 合板円形型枠

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリート削孔工	箇所		「橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照
アンカー定着工	本		「橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）」参照
鉄筋工	t		
特別な養生	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) 養生工の有無は、養生工の種類（一般養生、特殊養生（練炭）及び特殊養生（ジェットヒータ））にかかわらず適用できる。
- (2) 保温養生等の特別な養生を必要とする場合は養生工無しを選択し、養生は、「コンクリート工」により別途考慮する。

## ⑧ 橋梁補修工（支承取替工）

### 1. 適用

橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、RCの支承取替には適用しないものとする。

適用できる範囲

- 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。

種 類	鋼橋－鋼製支承			鋼橋－ゴム支承
	I	II	III	IV
作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下

- PC橋の支承形式は以下を標準とする。

種 類	PC橋－ゴム支承
形 式	V
作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t)以下

### 2. 数量算出項目

支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。

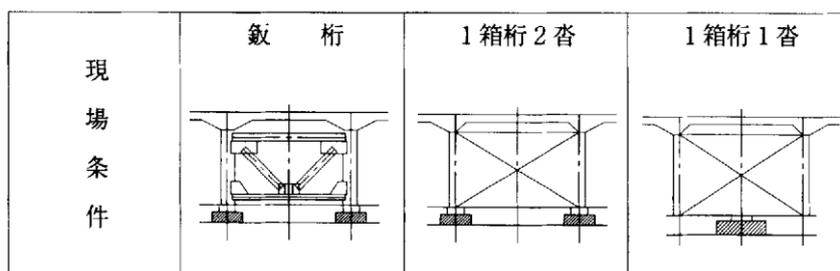
### 3. 区分

区分は、支承形式、現場条件、供用日数とする。

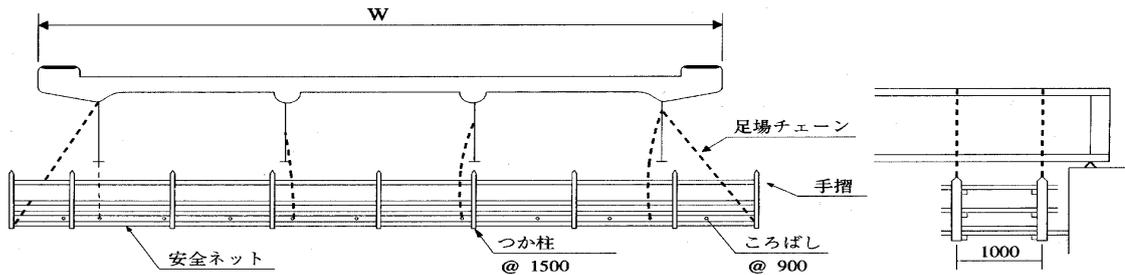
#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分			単 位	数 量	備 考
	支承形式	現場条件	供用日数			
支承取替（鋼橋）	○	○	×	基		
支承取替（PC橋）	×	×	×	基		
支承（材料費）	×	×	×	個		
足 場	×	×	○	m <sup>2</sup>		

注) 1. 現場条件は以下を標準とする。



2. 支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。  
 なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。



(2) 支承形式区分

- ① I
- ② II
- ③ III
- ④ IV

(3) 現場条件区分

- ① 鈹桁 (支承形式 II、IIIのみ)
- ② 1 箱桁 2 沓 (支承形式 II、IIIのみ)
- ③ 1 箱桁 1 沓 (支承形式 II、IIIのみ)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
現場補修塗装工	m <sup>2</sup>		

4. 数量算出方法

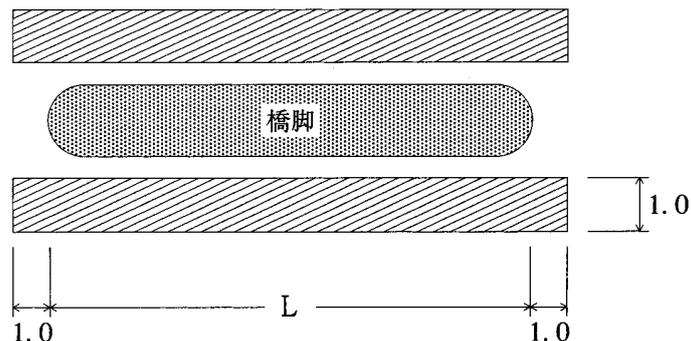
数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

- (1) 支承 (材料費) は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。
- (2) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。

$$\text{足場面積 } A = (L + 2) \times 1.0 \times 2 \times n$$

L : 橋台及び橋脚の長さ (m)

n : 橋台及び橋脚の数 (ただし、橋台の場合は 1/2 とする。)



## ⑨ 落橋防止装置工

### 1. 適用

落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。

### 2. 数量算出項目

コンクリート削孔（コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ）、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、アンカー材径、削孔深さ、適用アンカー材径、削孔方向とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### ①コンクリート削孔（コアボーリングマシン）

項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単位	数量	備考
コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔		

注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。

##### ②コンクリート削孔（ハンマドリル）

項目	単位	数量	備考
コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔		

注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。

2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。

##### ③コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））

項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考
コンクリート削孔 （さく岩機（ハンドハンマ））		○	孔		

注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。

2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。

④アンカー

項目	区分	適用 アンカー材径	削孔方向	単位	数量	備考
アンカー		○	○	本		
アンカー材 (材料費)		×	×	本		
注入材 (材料費)		×	×	本		
充填補修		×	×	孔		
補修材 (材料費)		×	×	孔		

注) 上方向のアンカー打込みの場合は別途考慮する。

(2) アンカー材径区分

1) コンクリート削孔 (コアボーリングマシン)

- ① 17mm以下
- ② 17mmを超え、23mm以下
- ③ 23mmを超え、30mm以下
- ④ 30mmを超え、43mm以下
- ⑤ 43mmを超え、54mm以下
- ⑥ 54mmを超え、67mm以下
- ⑦ 67mmを超え、80mm以下
- ⑧ 80mmを超え、100mm以下

2) アンカー

- ① 25mm以下
- ② 25mmを超え、40mm以下
- ③ 40mmを超え、55mm以下
- ④ 55mmを超え、70mm以下
- ⑤ 70mmを超え、85mm以下

(3) 削孔深さ区分

1) コンクリート削孔 (さく岩機 (ハンドハンマ))

- ① 500mm以下
- ② 500mmを超え、1,000mm以下
- ③ 1,000mmを超え、1,300mm以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)

2) コンクリート削孔 (さく岩機 (ハンドハンマ))

- ① 200mmを超え、500mm以下
- ② 500mmを超え、800mm以下

(4) 削孔方向区分

- ① 横方向
- ② 下方向

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
泥水処理工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
足場工	掛 m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) アンカー材（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。

(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当りの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg)} = \{(D^2 - d^2) \times \pi \times l / 4 \times \ell\} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$$

D：削孔径（m）

d：アンカー材径（m）

ℓ：削孔深（m）

M：単位質量は1,200 kg/m<sup>3</sup>とする。

K：ロス率は+0.15とする。

(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当りの注入材使用量を下式により算出する。

$$\text{使用量(kg)} = \{D^2 \times \pi \times l / 4 \times \ell\} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/孔})$$

D：削孔径（m）

ℓ：削孔深（m）（削孔深は不達孔の平均削孔深とする）

M：単位質量は1,875 kg/m<sup>3</sup>とする。

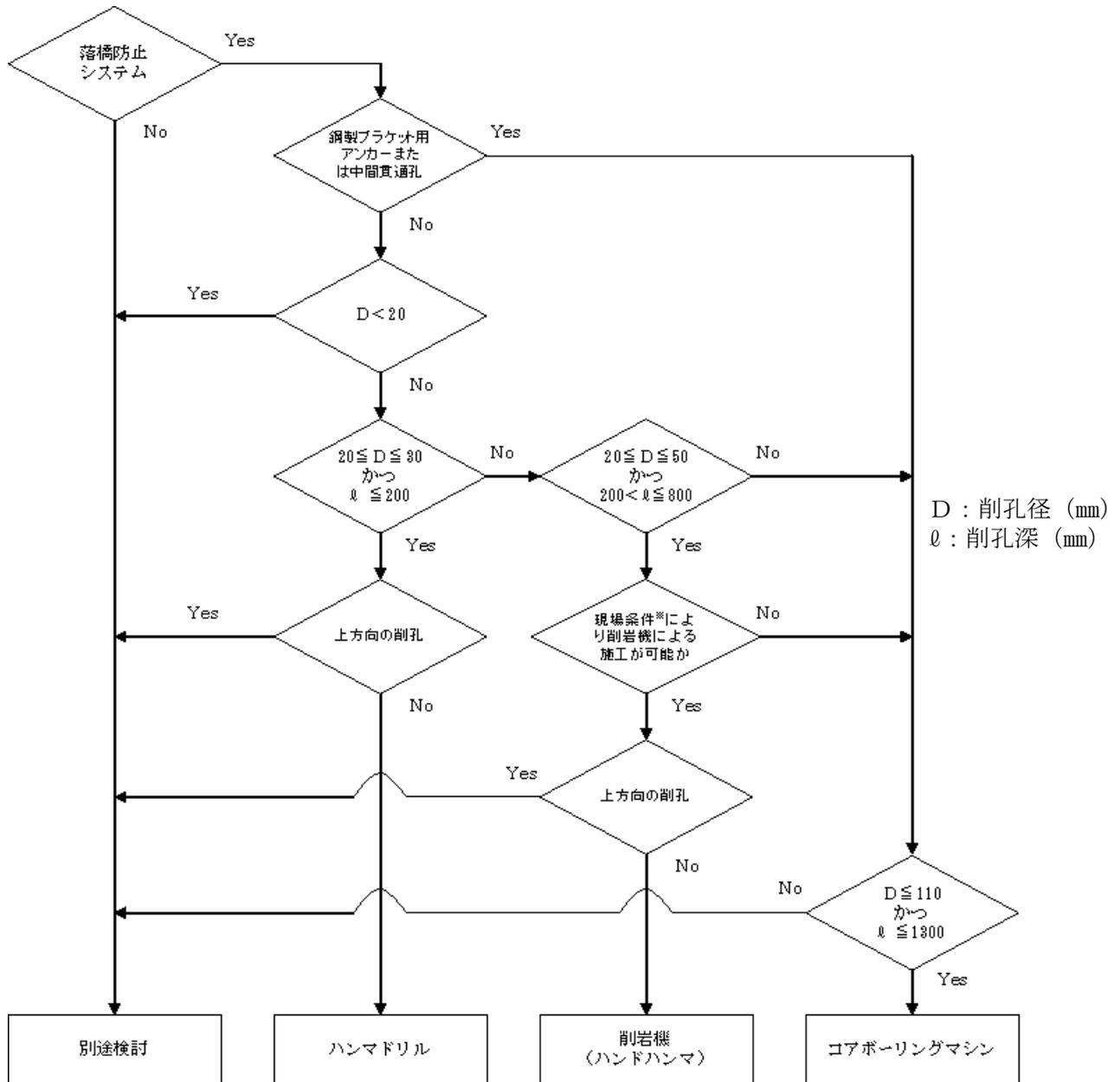
K：ロス率は+0.15とする。

(4) 削孔径はアンカー材径+10mm以上を確保できるビット径とし、アンカー材径に適用する削孔径と使用ビット径は下表を標準とする。

アンカー材径 (mm)	17以下	17を超え 23以下	23を超え 30以下	30を超え 43以下	43を超え 54以下	54を超え 67以下	67を超え 80以下	80を超え 100以下
適用削孔径 (mm)	27以下	27を超え 33以下	33を超え 40以下	40を超え 53以下	53を超え 64以下	64を超え 77以下	77を超え 90以下	90を超え 110以下
使用ビット径 (mm)	27.6	33.1	40.0	53.1	64.7	77.4	90.8	110.0

## 5. 参考

コンクリート削孔機種の選定は、下記を標準とする。



※現場条件とは、作業スペース、騒音・振動による制限及び既設配筋間隔等による施工障害とする。

## ⑩ 沓座拡幅工

### 1. 適用

沓座拡幅工のうち削孔工、チップング工、アンカーボルト挿入工、足場工及び防護工に適用する。

### 2. 数量算出項目

チップング（厚 1～2cm）、アンカーボルト挿入、アンカーボルト（材料費）、注入材（材料費）の数量を算出する。

### 3. 区分

区分は、無しとする。

#### (1) 数量算出項目一覧表

項目	単位	数量	備考
チップング (厚1～2cm)	m <sup>2</sup>		
アンカーボルト挿入	本		
アンカーボルト (材料費)	本		
注入材（材料費）	本		

#### 関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
削孔工	孔		「落橋防止装置工」参照
足場工	m <sup>2</sup>		「支承取替工」参照
防護工	m <sup>2</sup>		「床板補強工」参照

注) 防護工は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) アンカーボルト（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。

(2) 注入材（材料費）は、ロスを10%とし規格ごとに1本当りの使用量（kg）を算出する。

## ⑪ 路肩整正工（人力による土はね）

### 1. 適用

道路維持作業における路肩整正（人力による土はね、厚さ 10 cmまで、幅 1.0m まで）作業に適用する。

### 2. 数量算出項目

路肩整正（人力による土はね）の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、DID 区間の有無、運搬距離とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m <sup>2</sup>		

注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。

#### (2) 運搬距離区分

##### 1) DID 区間無し

- ① 2.0km 以下
- ② 3.0km 以下
- ③ 5.0km 以下
- ④ 6.5km 以下
- ⑤ 8.5km 以下
- ⑥ 11.0km 以下
- ⑦ 16.0km 以下
- ⑧ 27.5km 以下
- ⑨ 60.0km 以下

##### 2) DID 区間有り

- ① 1.5km 以下
- ② 2.5km 以下
- ③ 4.5km 以下
- ④ 6.0km 以下
- ⑤ 8.0km 以下
- ⑥ 10.5km 以下
- ⑦ 14.5km 以下
- ⑧ 23.0km 以下

⑨ 60.0km 以下

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
残土処分費	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 残土は、5 m<sup>3</sup>/100 m<sup>2</sup>とする。

## ⑫ 防護柵復旧工

### 1. 適用

損傷等によるガードレール及びガードパイプの復旧作業に適用する。

### 2. 数量算出項目

ガードレール及びガードパイプの延長を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、作業区分、材料費とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分				
	作業区分	材料費	単位	数量	備考
ガードレール復旧	○	○	m		
ガードパイプ復旧	○	○	m		

#### (2) 作業区分

##### 1) ガードレール復旧

- ① コンクリート、土中建込用支柱及びレール
- ② レールのみ

##### 2) ガードパイプ復旧

- ① コンクリート、土中建込用支柱及びパイプ
- ② パイプのみ

#### (3) 材料費

##### 1) ガードレール復旧・コンクリート、土中建込用支柱及びレール

- ① 土中建込 Gr-A-4E 塗装
- ② 土中建込 Gr-B-4E 塗装
- ③ 土中建込 Gr-C-4E 塗装
- ④ 土中建込 Gr-A-4E メッキ
- ⑤ 土中建込 Gr-B-4E メッキ
- ⑥ コンクリート建込 Gr-A-2B 塗装
- ⑦ コンクリート建込 Gr-B-2B 塗装
- ⑧ コンクリート建込 Gr-C-2B 塗装
- ⑨ コンクリート建込 Gr-A-2B メッキ
- ⑩ コンクリート建込 Gr-B-2B メッキ

- ⑪ 各種
- ⑫ 無し
- 2) ガードレール復旧・レールのみ
  - ① 各種
  - ② 無し
- 3) ガードパイプ復旧・コンクリート、土中建込用支柱及びパイプ
  - ① G p - A p - 2 E 土中建込 塗装
  - ② G p - B p - 2 E 土中建込 塗装
  - ③ G p - C p - 2 E 土中建込 塗装
  - ④ G p - A p - 2 E 土中建込 メッキ
  - ⑤ G p - B p - 2 E 土中建込 メッキ
  - ⑥ G p - A p - 2 B コンクリート建込 塗装
  - ⑦ G p - B p - 2 B コンクリート建込 塗装
  - ⑧ G p - C p - 2 B コンクリート建込 塗装
  - ⑨ G p - A p - 2 B コンクリート建込 メッキ
  - ⑩ G p - B p - 2 B コンクリート建込 メッキ
  - ⑪ 各種
  - ⑫ 無し
- 4) ガードパイプ復旧・パイプのみ
  - ① 各種
  - ② 無し

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。



## 第10章 橋梁工

### ① 鋼橋床版工

#### 1. 適用

鋼橋床版工に適用する。

#### 2. 数量算出項目

床版面積を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、型枠の補正係数、吊金具取付とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	型枠の 補正係数	吊金具取付 (材料費含む)	単位	数量	備考
型枠 (鋼橋床版)	○	○	m <sup>2</sup>		
養生 (鋼橋床版)	×	×	m <sup>2</sup>		

#### (2) 型枠の補正係数

- ① 補正なし
- ② 0.05 以下
- ③ 0.06 以下 0.10 以下

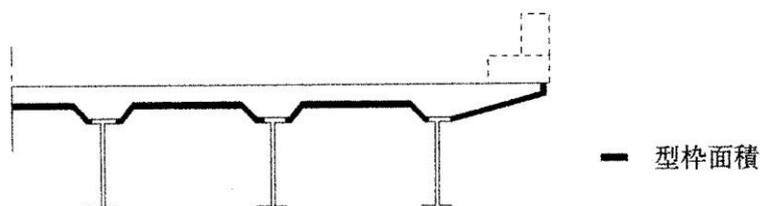
#### (3) 吊金具取付

- ① 工場
- ② 現場

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

#### (1) 型枠の数量は、下図により算出する。



- (2) 補正係数がスパンによって異なる場合は、スパンごとの補正係数を平均する。  
なお、補正係数は小数点以下3位を四捨五入する。

$$\text{平均補正係数} = \frac{L_1 \times K_1 \times n_1 + L_2 \times K_2 \times n_2 + \dots + L_m \times K_m \times n_m}{L_1 \times n_1 + L_2 \times n_2 + \dots + L_m \times n_m}$$

L : 桁長      K : 補正係数      n : 径間数

## ② 橋梁排水管設置工

### 1. 適用

鋼管、VP管（φ100mm～200mm）による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する作業に適用し、排水柵設置及び排水管製作は含まない。

### 2. 数量算出項目

排水管設置の延長を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、管種区分とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	管種 区分	単位	数量	備考
コンクリートアンカーボルト設置		×	本		
排水管設置		○	m		

注) 1. 流心延長も算出する。  
2. 排水径は、φ100～φ200とする。

#### (2) 管種区分

- ① VP管
- ② 鋼管

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法による。

(1) 排水管は、曲管、ジョイント管に区分して算出する。



## 第 11 章 その他

### ① 現場発生品及び支給品運搬

#### 1. 適用

片道運搬距離 60km 以下の現場発生材及び支給材運搬に適用する。

#### 2. 数量算出項目

運搬回数を区分ごとに算出する。

#### 3. 区分

区分は、トラック機種、片道運搬距離、1 回当たり平均積載質量とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	トラック 機種	片道運 搬距離	1 回当り 平均積載 質量	単位	数量	備考
現場発生材・支給品運搬	○	○	○	回		

#### (2) トラック機種

- ① クレーン装置付 ベーストラック 2t 級、吊能力 2t
- ② クレーン装置付 ベーストラック 4t 級、吊能力 2.9t

#### (3) 片道運搬距離

- ① 2.0km 以下
- ② 5.0km 以下
- ③ 9.0km 以下
- ④ 14.0km 以下
- ⑤ 20.0km 以下
- ⑥ 27.0km 以下
- ⑦ 35.0km 以下
- ⑧ 46.0km 以下
- ⑨ 60.0km 以下

#### (4) 1 回当たり平均積載質量

- 1) クレーン装置付 ベーストラック 2t 級、吊能力 2t
  - ① 0.1t 以下
  - ② 0.1t 超 0.2t 以下
  - ③ 0.2t 超 0.3t 以下
  - ④ 0.3t 超 0.5t 以下

- ⑤ 0.5t 超 0.8t 以下
- ⑥ 0.8t 超 1.1t 以下
- ⑦ 1.1t 超 1.5t 以下
- ⑧ 1.5t 超 2.0t 以下

2) クレーン装置付 ベーストラック 4t 級、吊能力 2.9t

- ① 0.1t 以下
- ② 0.1t 超 0.2t 以下
- ③ 0.2t 超 0.3t 以下
- ④ 0.3t 超 0.5t 以下
- ⑤ 0.5t 超 0.8t 以下
- ⑥ 0.8t 超 1.1t 以下
- ⑦ 1.1t 超 1.5t 以下
- ⑧ 1.5t 超 2.0t 以下
- ⑨ 2.0t 超 2.6t 以下
- ⑩ 2.6t 超 2.95t 以下

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。